

JP1 Version 8

JP1/Integrated Management - Manager 機能拡張

解説・手引・文法書

3020-3-K03-81

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，
巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参
照ください。

対象製品

適用 OS のバージョン , JP1/Integrated Management が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については各製品のリリースノートで確認してください。

適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP Professional

P-242C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-50

適用 OS : Windows Vista , Windows Server 2008

P-2A2C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-50

適用 OS : Windows Server 2003

P-242C-8E84 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-242C-6L84 JP1/Base 08-50

適用 OS : Windows Server 2008

P-2A2C-8E84 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-2A2C-6L84 JP1/Base 08-50

適用 OS : HP-UX

P-1B2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-1B2C-6L81 JP1/Base 08-50

適用 OS : Solaris

P-9D2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-9D2C-6L81 JP1/Base 08-50

適用 OS : AIX 5L 5.2 , 5L 5.3

P-1M2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-1M2C-6L81 JP1/Base 08-50

適用 OS : AIX 6.1

P-1M2C-9E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-1M2C-6L81 JP1/Base 08-50

適用 OS : Windows Server 2003(IPF)

P-282C-8E84 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-282C-6L84 JP1/Base 08-50

適用 OS : HP-UX(IPF)

P-1J2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-1J2C-6L81 JP1/Base 08-50

適用 OS : Linux AS 4 (x86) , Linux ES 4 (x86) , Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T) , Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)

P-9S2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-9S2C-7L81 JP1/Base 08-50

適用 OS : Linux 5 (x86) , Linux 5 AP (x86) , Linux 5 (AMD64 & Intel EM64T) , Linux 5 AP (AMD64 & Intel EM64T)

P-9S2C-9E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-9S2C-7L81 JP1/Base 08-50

適用 OS : Linux AS 4 (IPF)

P-9V2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-9V2C-6L81 JP1/Base 08-50

適用 OS : Linux 5 (IPF) , Linux 5 AP (IPF)

P-9V2C-9E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50

P-9V2C-6L81 JP1/Base 08-50

注 Windows Server 2008 は、P-2A2C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-50-05 以降でサポートしています。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

AIX は、米国における米国 International Business Machines Corp. の登録商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

BSAFE は、RSA Security Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

GIF は、米国 CompuServe Inc. が開発したフォーマットの名称です。

HP-UX は、米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

IBM は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Intel は、Intel Corporation の会社名です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の登録商標です。

Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは、米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Internet Information Services は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

NetInsight は、日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の商標です。

Netscape は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。

OpenView は、ヒューレット・パッカード社の商標です。

PA-RISC は、米国 Hewlett-Packard Company の商標です。

POSIX は、the Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. (IEEE) で制定された標準仕様です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標若しくは商標です。

RSA は、RSA Security Inc. の登録商標です。

Solaris は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

TELstaff は、日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の登録商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

XPG4 は、X/Open Company Limited の規格名称です。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8E81」「P-9D2C-6L81」には、米国 Sun Microsystems, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8E81」「P-9D2C-6L81」には、UNIX System Laboratories, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S.Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).



本製品は、RSA Security Inc. の RSA (R) BSAFE™ ソフトウェアを搭載しています。

HITACHI
Inspire the Next

株式会社 日立製作所



ビジュアル監視画面背景として添付している日本地図データの著作権等についての
ご注意

この地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用したものです。（承認番号 平 15 総使，第 88 号）

国土地理院の承認は、統合システム運用管理プログラム（JP1）（以下「本製品」という。）における使用に限られています。この地図の画像を本製品とは別に利用すること等この地図を本製品以外に利用することを禁じます。

また、地図を含む本製品は、著作権法により保護されています。
地図を翻案・改変等著作権を侵害する行為を行なうことを禁じます。
地図著作・制作者 株式会社 日立製作所 ソフトウェア事業部
All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, Hitachi, Ltd.

発行

2006年6月（第1.1版）3020-3-K03-01

2008年12月（第5.1版）3020-3-K03-81

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2008, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-K03-81) JP1/Integrated Management 08-50

追加・変更内容	変更箇所
記載内容を変更した。詳細は、付録 C を参照のこと。	付録 C

変更内容 (3020-3-K01-80 , 3020-3-K02-80 , 3020-3-K03-80) JP1/Integrated Management 08-50

追加・変更内容	変更箇所		
	システム構築・運用ガイド	リファレンス	機能拡張
JP1/Integrated Management が連携できる統合管理製品に JP1/Integrated Management・Service Support を追加した。	1.1.1 , 1.1.2	-	-
JP1/Base の前提 OS から Windows 2000 を削除した。	3.1.2	-	-
イベント取得フィルターに、メンテナンス対象ホストが発行する JP1 イベントを一時的に取得対象外とするための共通除外条件を追加した。	3.2.2 , 6.1.3 , 7.10.1 , 7.10.2 , 7.10.3 , 11.2.4 , 20.6 , 24.5 , 付録 D , 付録 H , 付録 I.3 , 付録 L	1.1 , 1.3.9 , 1.3.12 , 1.3.13 , 2. jcochfilter	-
次のフィルター、およびイベント検索の条件に、JP1 イベントを表示（取得）対象外とするための除外条件を追加した。 <ul style="list-style-type: none"> イベント取得フィルター ユーザーフィルター 重要イベントフィルター 表示フィルター 	3.2.2 , 6.1.3 , 11.2.1 , 11.2.2 , 11.2.3 , 11.2.4 , 20.3.1 , 24.5 , 付録 D , 付録 H , 付録 I.3 , 付録 L	1.3.8 , 1.3.9 , 1.3.10 , 1.3.12 , 1.3.15 , 1.3.18 , 1.3.21	-
監視オブジェクトの状態変更条件をメモリーに常駐させる機能を追加した。	3.3.2 , 12.7.5 , 13.2.4 , 13.3.4 , 16.1.1 , 16.1.3	3. 状態変更条件メモリー常駐機能の設定ファイル	-
JP1 イベントの受信時に、監視オブジェクトを自動で初期化する機能を追加した。	3.3.6 , 12.7.4 , 13.2.4 , 13.3.4 , 16.1.1 , 16.1.3	3. 監視オブジェクト初期化設定ファイル	-
JP1 イベントの対処済み時に状態変更イベントを自動で削除する機能を追加した。	3.3.8 , 12.7.3 , 13.2.4 , 13.3.4 , 16.1.1 , 16.1.3	3. 状態変更イベント自動削除設定ファイル	-
イベントサービスの登録ホスト名を FQDN 形式で利用する場合の設定方法を変更した。	9.4.9 , 10.4.8	-	-

追加・変更内容	変更箇所		
	システム構築・運用ガイド	リファレンス	機能拡張
uCosminexus Batch Job Execution Server が発行する応答待ちイベントを監視し、応答する機能を追加した。	9.4.9, 10.4.8, 23, 24.2.4, 24.3.1, 24.3.2, 24.5, 付録 E.1, 付録 H.1, 付録 H.2, 付録 H.3, 付録 L	1.3, 1.3.5, 1.3.6, 1.3.7, 1.3.8, 1.3.14, 1.3.15, 1.3.18, 1.3.21, 2. jcoimdef, 2. jim_log.bat (Windows 限定), 2. jim_log.sh (UNIX 限定), 3. 通信環境定義ファイル (view.conf.update), 4.2.2	-
JP1/Cm2/SNMP System Observer との連携でのセットアップの注意事項を変更した。	12.8.2, 12.8.4	-	-
ログファイルおよびディレクトリ一覧に次のファイルを追加した。 <ul style="list-style-type: none"> インストールログ イベントコンソールログ 応答待ちイベント滞留ファイル プラグインのログ 	24.2.4	-	-
イベントフロー制御トレースログのファイル数, 最大ディスク使用量, およびファイルの切り替え時期を変更した。	24.2.4	-	-
アクションホスト名格納ファイルの最大ディスク使用量を変更した。	24.2.4	-	-
イベント取得フィルターの最大長を変更した。	付録 D	1.3.10, 1.3.13	-
セントラルスコープサービスが起動していない場合は, [イベントコンソール] 画面にある [セントラルスコープ] 起動ボタンおよびメニューが非活性となるようにした。	-	1.3, 2. jcoimdef, 5.5.1	-
[コマンド実行] 画面で指定する「実行ホスト名」および「実行コマンド」が保存される件数を追加した。	-	1.3.30	-
[監視ツリー] 画面の表示項目の説明にタイトルバーを追加した。	-	1.4	-
このマニュアルで説明している JP1/Base のコマンドは, マネージャーホストを対象としているため, エージェントホストを対象に実行する JP1/Base のコマンドについては JP1/Base のマニュアルを参照する注釈を追加した。	-	2. コマンド一覧	-

追加・変更内容	変更箇所		
	システム構築・運用ガイド	リファレンス	機能拡張
jcocmddef コマンドの実行権限をスーパーユーザーに変更した。	-	2. コマンド一覧, 2. jcocmddef	-
jcocmddef コマンドを実行したときに出力されるメッセージの記述を追加した。	-	2. jcocmddef	-
jcocmddef コマンドの <code>-runevinterval</code> オプション (経過時間イベント発行間隔) に指定できる値を変更した。	-	2. jcocmddef	-
Linux 版で <code>jp1cohaverup</code> コマンドをサポートした。	-	2. jp1cohaverup	-
次のイベント ID の JP1 イベントの発行契機を変更した。 <ul style="list-style-type: none"> • 3F11 	-	4.2.1	-
次のイベント ID の JP1 イベントを追加した。 <ul style="list-style-type: none"> • 3F08 • 3F41 • 3F42 	-	4.2.1, 4.2.2	-
次のイベント ID の到着時刻の属性名を変更した。 <ul style="list-style-type: none"> • 3F01 • 3F03 • 3F04 • 3F05 • 3F06 	-	4.2.2	-
次のイベント ID のプロダクト名の内容を変更した。 <ul style="list-style-type: none"> • 3FA0 	-	4.2.2	-
メッセージの出力先にイベントログの列を追加した。	-	5.2.1	-

追加・変更内容	変更箇所		
	システム構築・運用ガイド	リファレンス	機能拡張
次のメッセージの出力先を変更した。 KAVB0001-E, KAVB0251-E, KAVB0292-I, KAVB0293-I, KAVB0401-E, KAVB0411-E, KAVB0801-E, KAVB0802-E, KAVB0803-E, KAVB0804-E, KAVB0805-E, KAVB0806-E, KAVB0810-E, KAVB0821-E, KAVB0822-E, KAVB0823-E, KAVB0824-E, KAVB0825-E, KAVB0826-E, KAVB0827-E, KAVB0828-E, KAVB1211-W, KAVB1501-E, KAVB1502-E, KAVB1510-E, KAVB1515-E, KAVB1523-E, KAVB1524-E, KAVB1525-E, KAVB2288-E, KAVB3625-E, KAVB3642-E, KAVB3899-E, KAVB4004-E, KAVB4022-E, KAVB4420-W, KAVB4421-W, KAVB4422-W, KAVB4423-W, KAVB4424-W, KAVB4905-E, KAVB5106-E, KAVB2234-I	-	5.2.1, 5.2.2, 5.2.4, 5.2.5, 5.2.11	-
次のメッセージを追加した。 KAVB0251-E, KAVB0551-E, KAVB0552-I, KAVB0553-Q, KAVB0554-E, KAVB0555-E, KAVB0556-I, KAVB0557-E, KAVB0558-E, KAVB0559-Q, KAVB0560-E, KAVB0561-E, KAVB0562-E, KAVB0563-E, KAVB0863-E, KAVB0864-I, KAVB0866-E, KAVB0868-I, KAVB0869-I, KAVB0870-E, KAVB0871-E, KAVB0872-E, KAVB1583-W, KAVB1584-W, KAVB1801-E, KAVB1802-W, KAVB1811-E, KAVB1812-E, KAVB1813-E, KAVB1814-E, KAVB1815-E, KAVB1816-W, KAVB1821-E, KAVB9201-I, KAVB9202-E	-	5.2.1, 5.2.9, 5.5.1, 5.5.9	-
次のメッセージを削除した。 KAVB3792-E	-	5.2.4, 5.4, 5.5.4	-
JP1/Integrated Management が出力する Windows イベントログの一覧にソース名を 追加した。	-	5.4	-

追加・変更内容	変更箇所		
	システム構築・運用ガイド	リファレンス	機能拡張
次のメッセージの説明を変更した。 KAVB0121-E , KAVB0246-E , KAVB0248-E , KAVB1210-E , KAVB1582-E , KAVB1652-E , KAVB1658-I , KAVB8101-E , KAVB8102-E , KAVB8103-E	-	5.5.1 , 5.5.8	-
次のメッセージを変更した。 KAVB0221-E , KAVB0223-E , KAVB0227-W , KAVB0228-E , KAVB0255-E , KAVB0810-E , KAVB0828-E , KAVB1516-W , KAVB1522-E , KAVB1551-E , KAVB1552-E , KAVB1554-E , KAVB1556-E , KAVB1650-E , KAVB1651-E , KAVB1658-I , KAVB4138-W , KAVB5105-W , KAVB5455-W , KAVB9032-E , KAJV2002-E , KAJV2004-E , KAJV2006-E , KAJV2008-E	-	5.5.1 , 5.5.5 , 5.5.9 , 5.5.11	-

はじめに

このマニュアルは、JP1/IM と JP1/Base を使って JP1/IM と連携するシステムを開発する際に必要な、JP1/IM で実施する作業の手順について説明したものです。

なお、このマニュアルは、マニュアル「JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Console 機能拡張編」から JP1/IM の機能だけを抜粋して、マニュアル「JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager 機能拡張」として発行しました。

対象読者

このマニュアルは、JP1/IM と JP1/Base を使って JP1/IM と連携するシステムを開発するソフトウェア開発者の方を対象としています。また、JP1/IM および JP1/Base の機能を理解していることを前提としています。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編で構成されています。なお、このマニュアルは各 OS に共通のマニュアルです。OS ごとに差異がある場合は、本文中でそのつど内容を書き分けています。

第 1 編 概要

JP1/IM の機能を拡張してできることの概要について説明しています。

第 2 編 運用

JP1/IM の機能を拡張する方法について説明しています。

第 3 編 リファレンス

JP1/IM でカスタマイズできる定義ファイル、および JP1/IM が提供するコマンドについてリファレンス形式で説明しています。

関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1/IM 関連

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド (3020-3-K01)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager リファレンス (3020-3-K02)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド (3020-3-K04)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス (3020-3-K05)
- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-K06)
- JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ (3020-3-K07)
- JP1 Version 8 JP1/Base 機能拡張 (3020-3-K08)

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Incident Master (3020-3-K09)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Rule Operation システム構築・運用ガイド (3020-3-K10)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Rule Operation GUI リファレンス (3020-3-K11)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - TELstaff JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View システム構築・運用ガイド (3020-3-K12)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Service Support システム構築・運用ガイド (3020-3-K14)

このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に、製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を示します。

このマニュアルでの表記		正式名称
Active Directory		Active Directory(R)
AIX		AIX 5L 5.2
		AIX 5L 5.3
		AIX 6.1
BJEX		uCosminexus Batch Job Execution Server
Cosminexus	Cosminexus Application Server	Cosminexus Application Server Enterprise Version 6
		Cosminexus Application Server Standard Version 6
		uCosminexus Application Server Enterprise
		uCosminexus Application Server Standard
		uCosminexus Service Platform
HNTRLlib		Hitachi Network Objectplaza Trace Library
HNTRLlib2		Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2
HP-UX	HP-UX (IPF)	HP-UX 11i V2(IPF)
		HP-UX 11i V3(IPF)
	HP-UX (PA-RISC)	HP-UX 11i V2(PA-RISC)
IE	Microsoft Internet Explorer	Microsoft(R) Internet Explorer(R)
	Windows Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)
IIS	Internet Information Services	Microsoft(R) Internet Information Services 5.01 以降

このマニュアルでの表記		正式名称
JP1/AJS2	JP1/AJS2 - Advanced Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Advanced Manager
	JP1/AJS2 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent
	JP1/AJS2 - Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager
	JP1/AJS2 - View	JP1/Automatic Job Management System 2 - View
JP1/AJS2 - Scenario Operation View		JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation View
JP1/Cm2/ESA		JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent
		JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent for Extension Mib Runtime
JP1/Cm2/SSO	JP1/Cm2/SSO	JP1/Cm2/SNMP System Observer
	JP1/SSO	JP1/Distributed Server System Observer
		JP1/Server System Observer
	JP1/PFM/SSO	JP1/Performance Management/ Distributed SNMP System Observer
JP1/Performance Management/SNMP System Observer		
JP1/FTP		JP1/File Transmission Server/FTP
JP1/Integrated Management または JP1/IM	バージョン 6 製品	
	JP1/IM - Central Console または JP1/IM - CC	JP1/Integrated Manager - Central Console
	JP1/IM - Central Console 5 Node または JP1/IM - CC 5 Node	JP1/Integrated Manager - Central Console 5 Node
	JP1/IM - Central Console 10 Node または JP1/IM - CC 10 Node	JP1/Integrated Manager - Central Console 10 Node
	JP1/IM - Central Console 10 Node アップグレード または JP1/IM - CC 10 Node アップグレード	JP1/Integrated Manager - Central Console 10 Node アップグレード
	JP1/IM - Console View または JP1/IM - View	JP1/Integrated Manager - Console View
	JP1/IM - Satellite Console または JP1/IM - SC	JP1/Integrated Manager - Satellite Console
	バージョン 7 製品	
	JP1/IM - Central Console または JP1/IM - CC	JP1/Integrated Manager - Central Console

このマニュアルでの表記	正式名称
JP1/IM - Central Console 10 Node または JP1/IM - CC 10 Node	JP1/Integrated Manager - Central Console 10 Node
JP1/IM - Central Console アップグレード または JP1/IM - CC アップグレード	JP1/Integrated Manager - Central Console アップグレード
JP1/IM - Central Information Master または JP1/IM - CM	JP1/Integrated Manager - Central Information Master
JP1/IM - Central Scope または JP1/IM - CS	JP1/Integrated Manager - Central Scope
JP1/IM - Incident Master または JP1/IM - IDM	JP1/Integrated Manager - Incident Master
JP1/IM - TELstaff	JP1/Integrated Manager - TELstaff
	JP1/Integrated Manager - TELstaff Alarm View
JP1/IM - View	JP1/Integrated Manager - View
バージョン 8 製品	
JP1/IM - Central Information Master または JP1/IM - CM	JP1/Integrated Management - Central Information Master
JP1/IM - Incident Master または JP1/IM - IDM	JP1/Integrated Management - Incident Master
JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
JP1/IM - Rule Operation または JP1/IM - RL	JP1/Integrated Management - Rule Operation
JP1/IM - Service Support または JP1/IM - SS	JP1/Integrated Management - Service Support
JP1/IM - TELstaff	JP1/Integrated Management - TELstaff
	JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View
JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
JP1/IPRM	JP1/IP Resource Management Server
JP1/NetInsight II - Facility Manager	JP1/NetInsight II(R) - Facility Manager
	JP1/NetInsight II(R) - Facility Manager Standard
	JP1/NetInsight II(R) - Facility Manager Upgrade License
JP1/NPS	JP1/Network Printing System

このマニュアルでの表記		正式名称
JP1/PAM	JP1/PA - Adaptor	JP1/Performance Analysis - Adaptor
		JP1/Performance Management - Analysis Adaptor
	JP1/PA - Manager	JP1/Performance Analysis - Manager
		JP1/Performance Management - Analysis Manager
	JP1/PA - View	JP1/Performance Analysis - View
		JP1/Performance Management - Analysis View
JP1/PFM	JP1/PFM - Agent	JP1/Performance Management - Agent for Platform などのエージェント製品群
	JP1/PFM - Manager	JP1/Performance Management - Manager
	JP1/PFM - View	JP1/Performance Management - View
	JP1/PFM - Web Console	JP1/Performance Management - Web Console
JP1/PFM/SSO for Application Server		JP1/Performance Management/SNMP System Observer for Application Server
JP1/SES		JP1/System Event Service
JP1/ServerConductor	JP1/ServerConductor	JP1/ServerConductor/Advanced Agent
		JP1/ServerConductor/Agent
		JP1/ServerConductor/Blade Server Manager
		JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plus
		JP1/ServerConductor/Server Manager
	ServerConductor	ServerConductor/Advanced Agent
		ServerConductor/Agent
		ServerConductor/Blade Server Manager
		ServerConductor/Server Manager
	System Manager	System Manager - Advanced Agent
		System Manager - Management Console
		System Manager - Server Agent
		System Manager - Server Agent for HP-UX
	Linux	Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)
Linux AS 4 (IPF) または Linux (IPF)		Red Hat Enterprise Linux AS 4 (IPF)
Linux AS 4 (x86)		Red Hat Enterprise Linux AS 4 (x86)

このマニュアルでの表記		正式名称
	Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)	Red Hat Enterprise Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)
	Linux ES 4 (x86)	Red Hat Enterprise Linux ES 4 (x86)
	Linux AP 5 (AMD64 & Intel EM64T)	Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD64 & Intel EM64T)
	Linux AP 5 (IPF)	Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform (IPF)
	Linux AP 5 (x86)	Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform (x86)
	Linux 5 (AMD64 & Intel EM64T)	Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD64 & Intel EM64T)
	Linux 5 (x86)	Red Hat Enterprise Linux 5 (x86)
NNM	HP OpenView NNM	hp OpenView network node manager
		hp OpenView network node manager Starter Edition
	JP1/Cm2/NNM	JP1/Cm2/Network Node Manager
		JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250
Solaris		Solaris 9
		Solaris 10
Windows 2000		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System
		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System
		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
Windows Server 2003	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003(IPF)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
	Windows Server 2003(x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
Windows Server 2003 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	

このマニュアルでの表記	正式名称
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
	Windows Server 2003 R2(x64)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
Windows Vista	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

注 JP1/IM - Central Information Master , JP1/IM - Incident Master , JP1/IM - Rule Operation , JP1/IM - Service Support , および JP1/IM - TELstaff については、このマニュアルで説明する JP1/IM - Manager , JP1/IM - View に関連する機能概要だけ説明しています。

- Windows 2000 , Windows XP Professional , Windows Server 2003 , Windows Server 2008 , Windows Vista を総称して Windows と表記することがあります。
- HP-UX , Solaris , AIX , および Linux を総称して UNIX と表記することがあります。

このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AMD	Advanced Micro Devices
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
CMT	Container-Managed Transaction
CRLF	Carriage Return/Line Feed
CSV	Comma Separated Value
DB	Database
DBMS	Database Management System
DNS	Domain Name System
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GMT	Greenwich Mean Time
GUI	Graphical User Interface

英略語	正式名称
HTML	Hyper Text Markup Language
HTTP	HyperText Transfer Protocol
IP	Internet Protocol
IPF	Itanium(R) Processor Family
ISAM	Indexed Sequential Access Method
J2EE	Java TM 2 Platform Enterprise Edition
Java VM	Java TM Virtual Machine
JDBC	Java DataBase Connectivity
JIS	Japanese Industrial Standards
LAN	Local Area Network
NAT	Network Address Translator
NIC	Network Interface Card
NTP	Network Time Protocol
OTS	Object Transaction Service
POSIX	Portable Operating System Interface for UNIX
SFO	Session Fail Over
SNMP	Simple Network Management Protocol
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
TXT	Text
UCS	Universal Multiple-Octet Coded Character Set
UNC	Universal Naming Convention
URL	Uniform Resource Locator
UTC	Universal Time Coordinated
UTF	UCS Transformation Format
WAN	Wide Area Network
WWW	World Wide Web

バージョン 8 での製品体系変更について

バージョン 8 では、JP1/IM の製品体系に次の変更がありました。

- JP1/IM - Central Console , JP1/IM - Central Scope が統合されて JP1/IM - Manager になりました。
- JP1/IM - Central Console 10 Node が廃止されました。
- JP1/IM - Central Console アップグレードが廃止されました。
- JP1/IM - Rule Operation が追加されました。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Rule Operation システム構築・運用ガイド」を参照してください。

このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[]	メニュー項目、ダイアログボックス、ダイアログボックスのボタンなどを示す。 例 [ファイル] - [新規作成] を選択する。 上記の例では、メニューバーの [ファイル] を選んで、プルダウンメニューの [新規作成] を選択することを示す。

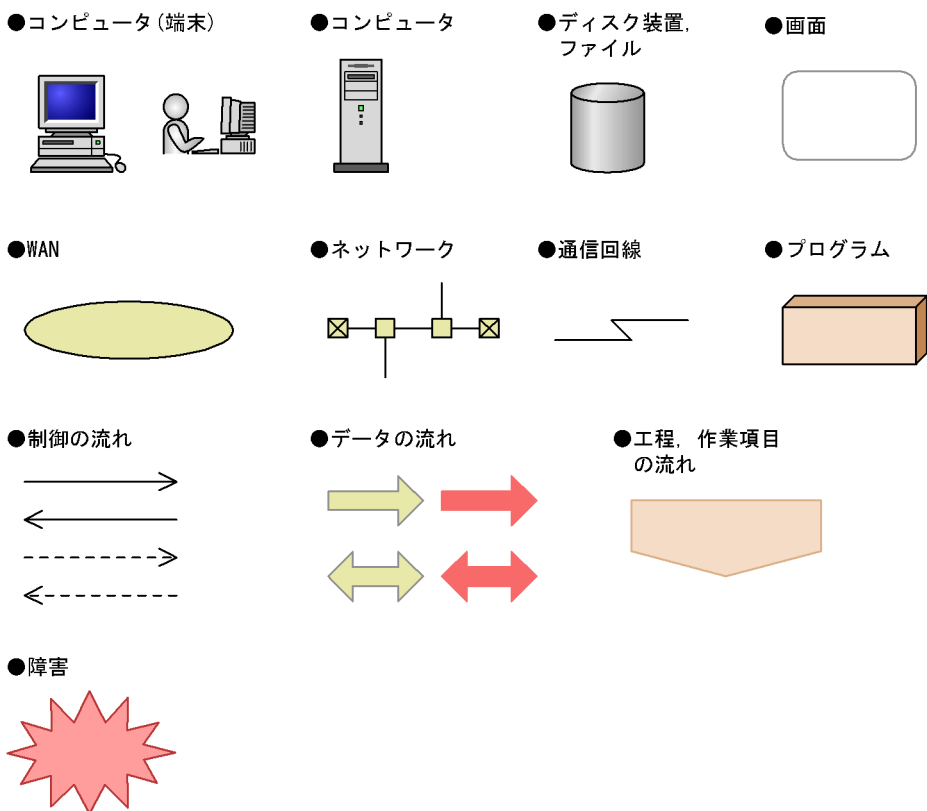
コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示す。 例 「A B C」は、「A, B または C」を示す。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず 1 組の項目を選択する。項目の区切りは で示す。 例 {A B C} は「A, B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる（省略してもよい）。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択する。 例 [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。 [B C] は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示す。
...または ...	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できる。 例 「A, B, ...」は「A の後に B を必要個数指定する」ことを示す。
— (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムがとる標準値を示す。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効である。 例 [<u>A</u> B] はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したとみなすことを示す。
	空白を表す。 _0 : 0 個以上の空白（空白を省略できる） _1 : 1 個以上の空白（空白を省略できない）

図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。



Windows 版 JP1/IM, JP1/Base のインストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、Windows 版 JP1/IM, JP1/Base のインストール先フォルダを次のように表記しています。

製品名	インストール先フォルダの表記	デフォルトインストール先フォルダ
JP1/IM・View	View パス	システムドライブ : ¥Program Files¥HITACHI¥JP1CoView
JP1/IM・Manager	Manager パス	システムドライブ : ¥Program Files¥HITACHI¥JP1IMM
	Console パス	システムドライブ : ¥Program Files¥HITACHI¥JP1Cons
	Scope パス	システムドライブ : ¥Program Files¥HITACHI¥JP1Scope
JP1/Base	Base パス	システムドライブ : ¥Program Files¥HITACHI¥JP1Base

注 各製品をデフォルトのままインストールした場合のインストール先フォルダを表しています。Windows Vista, Windows Server 2008 の場合、「システムドライブ : ¥ProgramData」と表記している部分は、インストール時の OS 環境変数によって決定されるため、環境によって異なる場合があります。

このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対する Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば、ローカルユーザー、ドメインユーザーおよび、Active Directory 環境で動作に違いはありません。

オンラインマニュアルについて

JP1/IM では、WWW ブラウザーで参照できる HTML マニュアルを提供しています。HTML マニュアルは、下記 WWW ブラウザーで参照できます。

- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
- Windows Internet Explorer 7 以降

オンラインマニュアルの内容は、このマニュアルと同様です。

オンラインマニュアルは、次の操作で目次が表示されます。

- JP1/IM - View : [ヘルプ] - [目次] を選択する。または、スタートメニューから [プログラム] - [JP1_Integrated Management - View] - [ヘルプ] を選択する。

注意事項

- スタートメニューからオンラインマニュアルを表示させると、OS の設定によってすでに表示されているブラウザの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

個所（かしょ）

矩形（くけい）

罫線（けいせん）

桁（けた）

閾値（しきいち）

進捗（しんちょく）

橙（だいだい）

伝播（でんぱ）

同梱（どうこん）

貼り付け（はりつけ）

汎用（はんよう）

必須（ひつす）

KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、1,024² バイト、1,024³ バイト、1,024⁴ バイトです。

目次

第1編 概要

1	機能拡張の概要	1
1.1	特長	2

第2編 運用

2	ユーザー独自のイベント属性を表示する	3
2.1	機能の解説	4
2.2	ユーザー独自のイベント属性を表示する手順	5
2.2.1	定義ファイルを作成する	7
2.2.2	定義ファイルを有効にする	10

3	JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからアプリケーションを起動する	11
3.1	機能の解説	12
3.1.1	前提条件	13
3.2	モニター画面を呼び出す手順	14
3.2.1	モニター画面呼び出しをするための画面を決める	14
3.2.2	定義ファイルを作成する	15
3.2.3	定義ファイルを有効にする	18

4	[統合機能メニュー] 画面に新規メニューを追加する	21
4.1	機能の解説	22
4.1.1	前提条件	23
4.2	新規メニューを追加する手順	24
4.2.1	[統合機能メニュー] 画面から起動する画面を決める	24
4.2.2	定義ファイルを作成する	25
4.2.3	定義ファイルを有効にする	28

第3編 リファレンス

5

定義ファイル	29
5.1 定義ファイル一覧	30
5.1.1 定義ファイルの関連	30
5.1.2 定義ファイルの命名規則	31
5.1.3 定義ファイルの格納先	32
5.1.4 定義ファイルが有効になる契機	33
5.1.5 モデルファイル	34
5.2 定義ファイルの構造	35
5.2.1 定義ファイルの構成要素	35
5.3 イベント拡張属性定義ファイル	39
5.3.1 ファイル内ステートメントの生成規則	40
5.3.2 イベント拡張属性定義ファイルのブロックの生成規則	41
5.3.3 イベント拡張属性定義ブロック内のステートメント生成規則	42
5.3.4 属性グループ定義ブロック内のステートメント生成規則	44
5.3.5 属性表示順序定義ブロック内のステートメント生成規則	46
5.3.6 イベント拡張属性定義ファイルの定義例	48
5.3.7 標準提供されているイベント拡張属性定義ファイル	48
5.4 オブジェクトタイプ定義ファイル	50
5.4.1 形式	50
5.4.2 注意事項	50
5.4.3 定義例	50
5.5 アプリケーション実行定義ファイル	52
5.5.1 ファイル内ステートメントの生成規則	52
5.5.2 アプリケーション実行定義ファイルのブロックの生成規則	52
5.5.3 アプリケーション実行定義ブロック内のステートメント生成規則	53
5.5.4 置換文字列	55
5.5.5 アプリケーション実行定義ファイルの定義例	56
5.6 モニター画面呼び出し定義ファイル	57
5.6.1 形式	57
5.6.2 モニター画面呼び出し定義ファイルの定義例	61
5.7 統合機能メニュー定義ファイル	63
5.7.1 ファイル内ステートメントの生成規則	63
5.7.2 統合機能メニュー定義ファイルのブロック	63
5.7.3 機能ツリーメニュー定義ブロック内のステートメント生成規則	64

5.7.4 統合機能メニュー定義ファイルの定義例	68
--------------------------	----

6 コマンド	71
コマンドの記述形式	72
コマンド一覧	73
jcoappexecfcheck	74
jcoatrfcheck	76
jcofuncfcheck	78
jcomonitorfcheck	81

付録	85
付録 A JP1 イベントの属性の設定基準	86
付録 A.1 基本属性	86
付録 A.2 拡張属性	87
付録 B 定義ファイルのステートメントの詳細	91
付録 B.1 ステートメントの種類	91
付録 B.2 ステートメントの構造	91
付録 B.3 ステートメント内の構成要素の生成規則	92
付録 C (3020-3-K03-81) の変更内容	95

索引	103
-----------	------------

1

機能拡張の概要

この章では、JP1/IMの機能を拡張してできることの概要について説明します。

1.1 特長

1.1 特長

JP1/IM の定義ファイルをカスタマイズすることによって、ほかのアプリケーションが JP1/IM と連携するための機能を拡張できるようになります。機能を拡張すると、次のことができます。

ユーザー独自のイベント属性を表示する

JP1/Base が提供する関数を使えば、ユーザーアプリケーションからも JP1 イベントを発行できるようになります。また、この場合、ユーザー独自のイベント属性（拡張属性の固有情報）を付加することもできます。ユーザー独自のイベント属性が付加された、このような JP1 イベントを独自イベントと呼びます。独自イベントの発行方法については、マニュアル「JP1/Base 機能拡張」を参照してください。

イベント属性（拡張属性の固有情報）は、通常は JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示されませんが、そのイベント属性についての定義ファイルを作成することによって、表示できるようになります。定義ファイルを使用して独自イベント（拡張属性の固有情報）を表示する方法については、「2. ユーザー独自のイベント属性を表示する」を参照してください。

JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからモニター画面を表示する

定義ファイルを作成することによって、JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからその JP1 イベントを発行したアプリケーションの画面を表示・操作できるようになります。定義ファイルを使用して JP1 イベントからモニター画面を呼び出す方法については、「3. JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからアプリケーションを起動する」を参照してください。

[統合機能メニュー] 画面に新規メニューを追加する

JP1/IM - View の [統合機能メニュー] 画面に表示される機能ツリーに新しいメニューを追加して、そのメニューから、システムやアプリケーションを管理する画面を起動するように設定できます。

[統合機能メニュー] 画面に新規メニューを追加するには、定義ファイルを使用します。

定義ファイルを使用して [統合機能メニュー] 画面に新規メニューを追加する方法については、「4. [統合機能メニュー] 画面に新規メニューを追加する」を参照してください。

2

ユーザー独自のイベント属性を表示する

この章では、ユーザーアプリケーションから直接発行した独自イベントのユーザー独自のイベント属性（拡張属性の固有情報）をJP1/IM・Viewの[イベント詳細]画面に表示する機能の概要および作業手順について説明します。

2.1 機能の解説

2.2 ユーザー独自のイベント属性を表示する手順

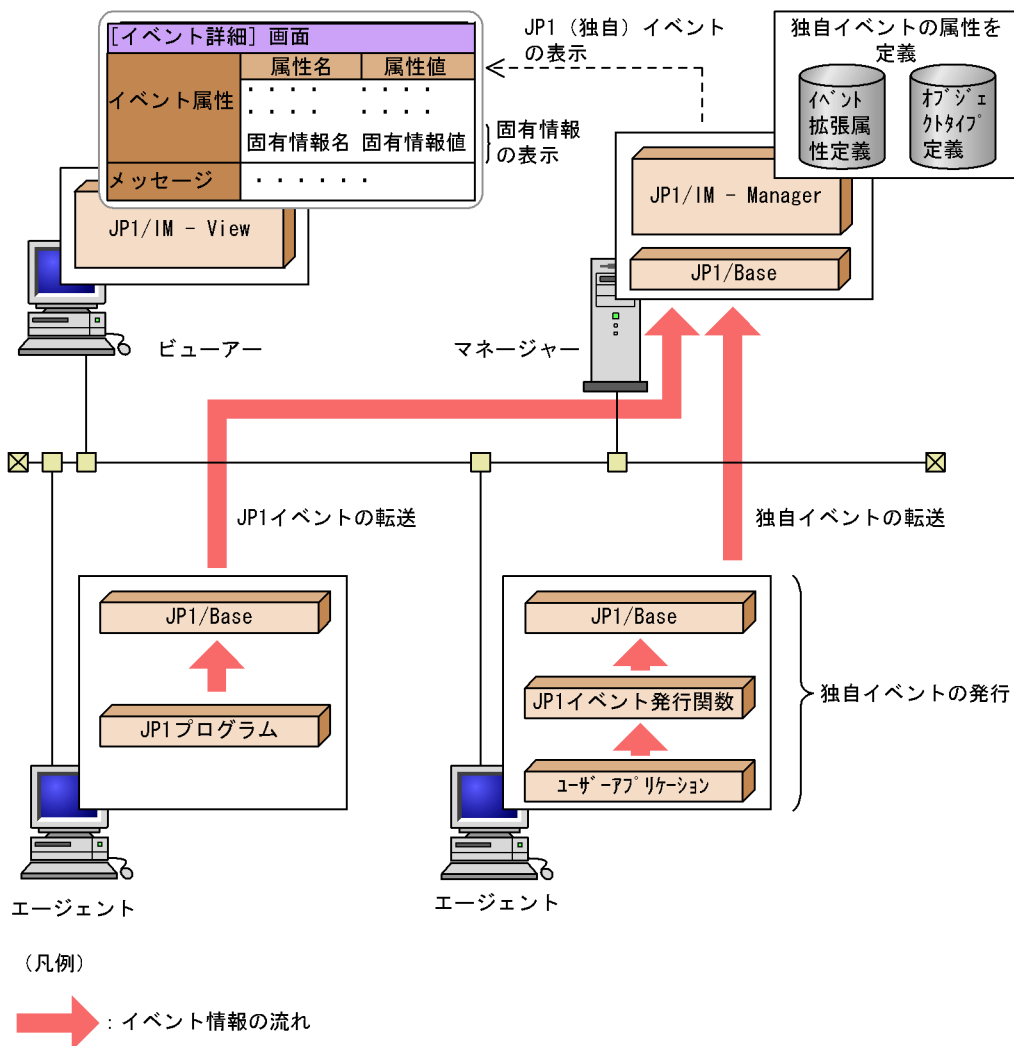
2.1 機能の解説

JP1/Base の JP1 イベント発行関数を使用することによって、ユーザー独自のイベント属性（拡張属性の固有情報）を付加した独自イベントをユーザーアプリケーションから直接、発行できるようになります。

JP1/IM では、定義ファイルを作成することによって、独自イベントのユーザー独自のイベント属性（拡張属性の固有情報）を [イベント詳細] 画面に表示できます。

独自イベントの発行からユーザー独自のイベント属性の表示までの概要を次の図に示します。

図 2-1 独自イベントの発行からユーザー独自のイベント属性の表示までの概要



2.2 ユーザー独自のイベント属性を表示する手順

ユーザー独自のイベント属性（拡張属性の固有情報）を表示するための作業手順を示します。

なお、JP1/IM で作業に入る前に、JP1/Base で独自イベントを発行できるようにするための作業が必要です。JP1/Base での独自イベントを発行できるようにする方法については、マニュアル「JP1/Base 機能拡張」を参照してください。

また、独自イベントは、JP1/Base で `jevsend` および `jevsendd` コマンドを使用して発行することもできます。その場合にも、イベント拡張属性定義ファイルの設定などが必要になることがあります。JP1/Base で `jevsend` および `jevsendd` コマンドを使用して独自イベントを発行できるようにする方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

JP1/IM での作業の流れは次のとおりです。

1. 定義ファイルを作成する

JP1/IM・Manager がインストールされたマシン上に、次の定義ファイルを作成します。

- イベント拡張属性定義ファイル
表示したいユーザー独自のイベント属性を定義します。
- オブジェクトタイプ定義ファイル
ユーザー独自のイベント属性を JP1/IM・View の画面のどの表示項目に表示するかを定義します。

2. 定義ファイルを有効にする

それぞれの作業の詳細を次項から説明しますが、例として次に示す JP1 イベントを仮定し、そのイベント属性を表示するための定義ファイルの作成方法を説明することにします。

例として取り上げる JP1 イベント

Windows 上で動作する「SAMPLE」という名称のアプリケーションが、起動・停止時に発行する開始イベントと異常終了イベント

それぞれのイベントの詳細を次に示します。

表示する JP1 イベントの種類

- SAMPLE アプリケーションの開始時に発行される JP1 イベント（開始イベント）
イベント ID：0x00000001
メッセージ：「SAMPLE アプリケーションを開始します。」

2. ユーザー独自のイベント属性を表示する

- SAMPLE アプリケーションの異常終了時に発行される JP1 イベント（異常終了イベント）
 イベント ID：0x00000002
 メッセージ：「SAMPLE アプリケーションが異常終了しました。」

開始イベントのイベント属性定義（拡張属性 (extattrs)）

SAMPLE アプリケーションの開始イベントには，次の属性が定義されています。

表 2-1 開始イベントの属性

属性の種類	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	0x00000001
	メッセージ	-	「SAMPLE アプリケーションを開始します。」
拡張属性 (共通情報)	重大度	SEVERITY	Notice
	ユーザー名	USER_NAME	SAMPLE_USER
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/COMPANY/APP1/ SAMPLE_PRODUCT (プロダクトの名称)
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SAMPLE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	SAMPLE_NAME
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	ROOT_SAMPLE
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	ROOT_SAMPLE_NAME
	オブジェクト ID	OBJECT_ID	SAMPLE_ID
	事象種別	OCCURRENCE	START
	開始時刻	START_TIME	SAMPLE アプリケーションの 開始時刻。UTC 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数。
	プラットフォーム種別	PLATFORM	NT
	バージョン情報	ACTION_VERSION	0600
拡張属性 (固有情報)	SAMPLE 共通属性 1	COMMON_ATTR1	NATIVE
	SAMPLE 共通属性 2	COMMON_ATTR2	TRUE
	SAMPLE 開始属性 1	START_ATTR1	SAMPLE1
	SAMPLE 開始属性 2	START_ATTR2	SAMPLE2

異常終了イベントのイベント属性定義（拡張属性 (extattrs)）

SAMPLE アプリケーションの異常終了イベントには，次の属性が定義されてい
 ます。

表 2-2 異常終了イベントの属性

属性の種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	-	0x00000002
	メッセージ	-	「SAMPLE アプリケーションが異常終了しました。」
拡張属性 (共通情報)	重大度	SEVERITY	Error
	ユーザー名	USER_NAME	SAMPLE_USER
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/COMPANY/APP1/ SAMPLE_PRODUCT (プロダクトの名称)
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SAMPLE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	SAMPLE_NAME
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	ROOT_SAMPLE
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	ROOT_SAMPLE_NAME
	オブジェクト ID	OBJECT_ID	SAMPLE_ID
	事象種別	OCCURRENCE	END
	終了時刻	END_TIME	SAMPLE アプリケーションの 終了時刻。UTC 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数。
	終了コード	RESULT_CODE	SAMPLE アプリケーション終 了時の終了コード
	プラットフォーム種別	PLATFORM	NT
	バージョン情報	ACTION_VERSION	0600
拡張属性 (固有情報)	SAMPLE 共通属性 1	COMMON_ATTR1	NATIVE
	SAMPLE 共通属性 2	COMMON_ATTR2	TRUE
	SAMPLE 終了属性 1	END_ATTR1	SAMPLE1
	SAMPLE 終了属性 2	END_ATTR2	SAMPLE2

2.2.1 定義ファイルを作成する

(1) イベント拡張属性定義ファイルの作成

(a) 定義する内容

イベント拡張属性定義ファイルには、表示したい独自イベントに設定されているイベント属性のうち、詳細情報として表示したいイベント属性だけを定義します。基本属性、および拡張属性の共通情報部分は自動的に設定されるため、定義の必要はありません。固有情報部分だけを定義します。イベント拡張属性定義ファイルの詳細については、「5.3 イベント拡張属性定義ファイル」を参照してください。

2. ユーザー独自のイベント属性を表示する

なお、JP1/IM には、イベント拡張属性定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcoattrfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

(b) 格納場所

この定義ファイルは次のディレクトリに格納します。定義は、JP1/IM - Manager を再起動した後に有効になります。

Windows の場合

Console パス ¥conf¥console¥attribute¥
クラスタ運用の場合は、共有フォルダ ¥jplcons¥conf¥console¥attribute¥ となります。

UNIX の場合

/etc/opt/jplcons/conf/console/attribute/
クラスタ運用の場合は、共有ディレクトリ /jplcons/conf/console/attribute/ となります。

(c) 定義例

前述の「SAMPLE」というアプリケーションが発行する独自イベントについてイベント拡張属性定義ファイルに定義をする例を示します。この定義ファイルでは、一つのアプリケーションが発行するすべての JP1 イベントの属性をまとめて定義します。この例では、SAMPLE アプリケーションが発行するイベント ID 00000001 および 00000002 の JP1 イベントの属性をまとめて記述してあります。

この例では次のファイル名を使用します。

```
company_sample_attr_ja.conf
```

このファイル名は、「company」という会社の SAMPLE アプリケーションであることを表します。

イベント拡張属性定義ファイルの定義例を次に示します。

図 2-2 イベント拡張属性定義ファイルの定義例



- (1) バージョンには「0300」だけを指定できます。
- (2) イベント拡張属性「PRODUCT_NAME」に指定した値です。
- (3) 「platform=」の値は、イベント拡張属性「PLATFORM」に指定した値です。
- (4) 「title=」は、詳細情報に表示する名称を定義します。
- (5) 「platform=」の値は、イベント拡張属性「PLATFORM」に指定した値です。
- (6) 属性のグループを定義します。
- (7) 「platform=」の値は、イベント拡張属性「PLATFORM」に指定した値です。
- (8) (6)で指定したグループ名が使用されます。

(2) オブジェクトタイプ定義ファイルの作成

(a) 定義する内容

オブジェクトタイプ定義ファイルには、表示したい独自イベントの拡張属性値、および JP1/IM - View の画面 ([重要イベント定義] 画面, [イベント取得条件設定] 画面など) の [オブジェクトタイプ] および [登録名タイプ] に表示される項目を定義します。この定義ファイルは、JP1 イベントの詳細情報を表示するために必要です。オブジェクトタイプ定義ファイルの詳細については、「5.4 オブジェクトタイプ定義ファイル」を参照してください。

(b) 格納場所

この定義ファイルは次のディレクトリに格納します。定義は、JP1/IM - Manager を再起動した後には有効になります。

Windows の場合

Console パス ¥conf¥console¥object_type¥

2. ユーザー独自のイベント属性を表示する

クラスタ運用の場合は、共有フォルダ `¥jplcons¥conf¥console¥object_type¥` となります。

UNIX の場合

`/etc/opt/jplcons/conf/console/object_type/`

クラスタ運用の場合は、共有ディレクトリ `/jplcons/conf/console/object_type/` となります。

(c) 定義例

前述の「SAMPLE」というアプリケーションが発行する独自イベントについてオブジェクトタイプ定義ファイルに定義をする例を示します。この例では、`ROOT_OBJECT_TYPE` と `OBJECT_TYPE` に新しい定義を追加しているので、オブジェクト定義ファイルに定義する必要があります。

この例では次のファイル名を使用します。

```
company_sample_obj.ja
```

このファイル名は、「company」という会社のSAMPLEアプリケーションであることを表します。

オブジェクトタイプ定義ファイルの定義例を次に示します。

```
[ObjectType]
# 拡張属性値, リスト表示文字列, コメント
ROOT_SAMPLE, ROOT_SAMPLE //サンプルのルートオブジェクト名
SAMPLE, SAMPLE //サンプルのオブジェクト名
[End]
```

2.2.2 定義ファイルを有効にする

定義ファイルが有効になる契機は、ファイルによって異なります。有効になる契機を次に示します。

表 2-3 定義ファイルが有効になる契機

定義ファイル名	有効になる契機
イベント拡張属性定義ファイル	JP1/IM・Manager の再起動時
オブジェクトタイプ定義ファイル	JP1/IM・View の再起動時

3

JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからアプリ ケーションを起動する

この章では、JP1/IM - View に表示された JP1 イベントに対してユーザーが指定したモニター画面を呼び出す機能の概要、前提条件、および作業手順について説明します。

3.1 機能の解説

3.2 モニター画面を呼び出す手順

3.1 機能の解説

JP1/IM - View には、画面に表示された JP1 イベントに対してモニター画面を呼び出す機能があります。このモニター画面上で、JP1 イベントを発行したジョブやアプリケーションの詳細を表示したり、それらのジョブやアプリケーションを直接操作したりできます。なお、JP1/IM で提供している WWW ページ版の JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからは、モニター画面を呼び出すことはできません。

JP1/IM の定義ファイルをカスタマイズすることにより、デフォルトで起動できる画面のほかに、ユーザーが指定した次の画面を起動できるようになります（一つの JP1 イベントからは一つのアプリケーションだけ起動できます）。

- アプリケーションプログラムの画面
アプリケーションプログラムの画面を起動するためには、実行ファイルを指定します。
- WWW ページ
WWW ページを起動するためには、URL を指定します。

また、画面呼び出しの際には、JP1 イベントなどの情報をアプリケーションに渡すことができます。

注

デフォルトでは、次の画面を起動できます。

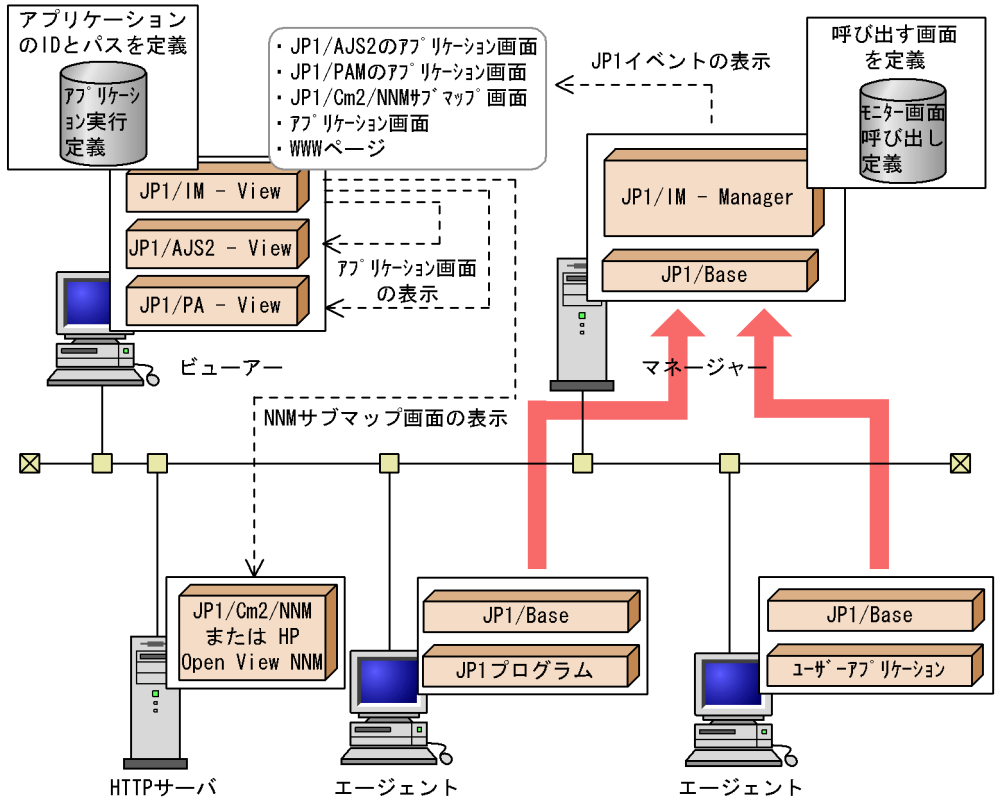
- JP1/AJS2（アプリケーション画面）
- JP1/PAM（アプリケーション画面）
- JP1/Cm2/NNM または HP OpenView NNM のサブマップ画面（WWW ページ）

なお、これらの連携製品側で JP1/IM との連携機能を強化するために、新たに設定を追加していることがあります。上記製品のマニュアルもお読みください。

モニター画面呼び出しの概要を次の図に示します。

3. JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからアプリケーションを起動する

図 3-1 JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからのモニター画面呼び出し



(凡例)

➡ : イベント情報の流れ

3.1.1 前提条件

アプリケーションプログラムの画面を起動するためには、起動する実行ファイルを JP1/IM - View がインストールされているマシン上に配置する必要があります。また、起動するアプリケーションプログラムの画面が実行できる権限で JP1/IM - View を起動する必要があります。

WWW ページを起動するためには、指定する WWW ブラウザーが接続するための HTTP サーバが必要です。

3.2 モニター画面を呼び出す手順

モニター画面呼び出しをするための作業手順を示します。作業の流れは次のとおりです。

1. モニター画面呼び出しをするための画面を決める
2. 定義ファイルを作成する
次の定義ファイルを作成します。
 - モニター画面呼び出し定義ファイル
この定義ファイルでは、どの JP1 イベントが発行されたときにどの画面を呼び出すかを定義します。この定義ファイルは、JP1/IM・Manager がインストールされたマシン上に作成します。
 - アプリケーション実行定義ファイル
この定義ファイルでは、モニター画面呼び出し定義ファイルで定義されたアプリケーションのパスを JP1/IM・View 側で解決するための定義をします。この定義ファイルは、JP1/IM・View がインストールされたマシン上に作成します。
3. 定義ファイルを有効にする

それぞれの作業の詳細を次項から説明します。

3.2.1 モニター画面呼び出しをするための画面を決める

モニター画面呼び出しをするためには、どの JP1 イベントが発行されたときにどの画面を呼び出すか、およびその画面を起動するときにどんな引数を指定するかを決める必要があります。モニター画面呼び出しは、ある JP1 イベントを発行したジョブやアプリケーションの詳細画面を呼び出したり、その詳細画面から直接、該当するジョブやアプリケーションを操作したりできるようにすることを目的としています。この目的に適した画面を選んでください。

また、画面起動時に必要な情報はすべて JP1 イベントの属性値から引き継ぐことになるので、JP1 イベントの属性もあわせて考慮する必要があります。

なお、モニター画面呼び出しによって起動されたアプリケーションのログイン認証などは共通化できないため、必要であればログインを省略するなどの方法（画面起動コマンドのオプション化）をアプリケーションごとにとる必要があります。

ここでは、JP1/IM・View 上でのアプリケーションプログラムの起動と WWW ページの起動について、「2. ユーザー独自のイベント属性を表示する」で説明したイベント属性の例を使って説明します。

3.2.2 定義ファイルを作成する

(1) モニター画面呼び出し定義ファイルの作成

(a) 定義する内容

この定義ファイルでは、モニター画面呼び出しをする JP1 イベントの ID や属性などを定義します。イベント属性は、イベント拡張属性定義ファイルの定義と対応させる必要があります。イベント属性の詳細については、「付録 A JP1 イベントの属性の設定基準」を参照してください。イベント拡張属性定義ファイルの詳細については、「5.3 イベント拡張属性定義ファイル」を参照してください。

また、この定義ファイルでは、呼び出す画面、および画面を呼び出すときの引数を定義します。呼び出す画面を定義するために、アプリケーション実行定義識別子を指定します。アプリケーション実行定義識別子は、モニター画面呼び出し定義ファイルで定義した画面を JP1/IM - View 側で識別するためのものです。したがって、モニター画面呼び出し定義ファイルで指定するアプリケーション実行定義識別子を、アプリケーション実行定義ファイルに定義する必要があります。指定したアプリケーション実行定義識別子は、アプリケーション実行定義ファイルによってパスが解決されます。また、実行ファイルの起動時には、モニター画面呼び出し定義ファイルで指定した引数が渡されます。モニター画面呼び出し定義ファイルの詳細については、「5.6 モニター画面呼び出し定義ファイル」を参照してください。

なお、JP1/IM には、モニター画面呼び出し定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcomonitorfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

(b) 格納場所

この定義ファイルは、次のディレクトリに格納します。定義は、JP1/IM - Manager を再起動した後に有効になります。

Windows の場合

Console パス ¥conf¥console¥monitor¥

クラスタ運用の場合は、共有フォルダ ¥jplcons¥conf¥console¥monitor¥ となります。

UNIX の場合

/etc/opt/jplcons/conf/console/monitor/

クラスタ運用の場合は、共有ディレクトリ /jplcons/conf/console/monitor/ となります。

(c) 定義例

ここでは、次の例を示します。

アプリケーションプログラムの画面の起動 (SAMPLE.EXE コマンドを起動する)

3. JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからアプリケーションを起動する

次の条件に適合した場合にアプリケーションプログラムの画面を呼び出します。

- イベント ID : 00000001
- プログラムのバージョン : 0500-0600
- 拡張属性「E.COMMON_ATTR1」の値 : NATIVE
- 拡張属性「E.COMMON_ATTR2」の値 : TRUE

アプリケーションプログラムの起動時に、-o オプションによってオブジェクト名を指定し、該当するオブジェクトに対する操作画面を開きます。次のオプションを指定します。

- SAMPLE.EXE -o オブジェクト名 -u ユーザー名

WWW ページの起動 (URL を指定して WWW ブラウザーを起動する)

次の条件に適合した場合に WWW ページを呼び出します。

- イベント ID : 00000002
- プログラムのバージョン : 0500-0600

次に示す URL を呼び出します。

- http:// ホスト名 /company/app1/cgi-bin/sample.cgi ?param= オブジェクト名

この例では、次のファイル名を使用します。

```
company_sample_mon_ja.conf
```

このファイル名は、「company」という会社の「SAMPLE」アプリケーションであることを表します。

モニター画面呼び出し定義ファイルの定義例を次に示します。なお、「DEF_」で始まる行は改行までが定義として認識されるため、実際の定義ファイルでは1行に記述します。次の例では、わかりやすくするために途中で改行を入れて示してあります。

図 3-2 モニター画面呼び出し定義ファイルの定義例

```

DESC_VERSION=0300
# モニター呼び出し時の固定キーを定義する
DEF_KEY PRODCUT_NAME=/COMPANY/APP1/SAMPLE_PRODUCT
      EVENT_ID=00000001
      VERSION=0500 - 0600 (1)
      SUBKEY=SAMPLE_SUB (2)
# 固定キー以外のイベント属性をキーとして定義する
DEF_SUBKEY NAME=SAMPLE_SUB (3)
      KEYS=E. COMMON_ATTR1, E. COMMON_ATTR2
# サブキーの値とインターフェースの関連づけ
DEF_IF_RELATION SUBKEY_NAME=SAMPLE_SUB (4)
      VALUE1="NATIVE" VALUE2="TRUE "
      IF_NAME=SAMPLE_VIEW (5)
# モニター画面呼び出しのインターフェース定義
DEF_MTR_CALL NAME=SAMPLE_VIEW (6)
      EXEC_ID=company_sample (7)
      PATH="-o %IM_EVC_PARAMETER_1% -u %IM_EVC_PARAMETER_2%" (8)
      PARAM=E. OBJECT_NAME, E. USER_NAME (9)
# WWWページ呼び出しのためのキー定義
DEF_KEY PRODCUT_NAME=/COMPANY/APP1/SAMPLE_PRODUCT
      EVENT_ID=00000002
      VERSION=0500 - 0600 (10)
      INTERFACE=SAMPLE_VIEW_WEB (11)
# WWWページ呼び出しのインターフェース定義
DEF_MTR_CALL NAME=SAMPLE_VIEW_WEB (12)
      EXEC_ID=company_sample_web (13)
      PATH="http://%IM_EVC_PARAMETER_1%/company/app1/cgi-bin/sample.cgi
          ?param=%IM_EVC_PARAMETER_2%"
      PARAM=B. SOURCESERVER, E. OBJECT_NAME

```

- (1) イベントの拡張属性「ACTION_VERSION」に対応します。
- (2)～(4) サブキーを関連づけます。
- (5), (6) インターフェースを関連づけます。
- (7) アプリケーション実行定義ファイルに定義したアプリケーション実行定義識別子を指定します。
- (8) 網掛けの部分はコマンドの引数を指定します。「PARAM」に指定した属性値が引数となります。
- (9) イベントの基本属性および拡張属性から指定します。
- (10) イベントの拡張属性「ACTION_VERSION」に対応します。
- (11), (12) サブキーを使用しない場合のインターフェースを定義します。
- (13) デフォルトのWWWブラウザを使用する場合は「default_browser」を指定します。

(2) アプリケーション実行定義ファイルの作成

(a) 定義する内容

アプリケーション実行定義ファイルには、モニター画面呼び出し定義ファイルで定義されたアプリケーション実行定義識別子とパスの関連づけを定義します。アプリケーション実行定義ファイルの詳細については、「5.5 アプリケーション実行定義ファイル」を参照してください。

なお、JP1/IM には、アプリケーション実行定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcoappexecfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細について

3. JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからアプリケーションを起動する

は、「6. コマンド」を参照してください。

(b) 格納場所

この定義ファイルは、ビューアーホスト上の次のディレクトリに格納します。定義は、JP1/IM - View を再起動したあとに有効になります。

Viewパス¥conf¥appexecute¥ja¥

(c) 定義例

ここでは、次の例を示します。

- アプリケーションプログラムの画面を起動するコマンド：SAMPLE.EXE
このコマンドのパスはレジストリーに記述されています。
- 使用する WWW ブラウザー
C:¥Program files¥Netscape¥bin¥netscape.exe
なお、システムのデフォルトの WWW ブラウザーを使用する場合は、WWW ブラウザーを定義する必要はありません。

この例では、次のファイル名を使用します。

company_sample_app.conf

アプリケーション実行定義ファイルの定義例を次に示します。

図 3-3 アプリケーション実行定義ファイルの定義例

```
@file type="application-execution-definition", version="0300"; (1)
# アプリケーションプログラム起動sample.exeコマンドの定義
@define-block type="application-execution-def";
id="company_sample";
path="[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥COMPANY¥SAMPLE¥PathName¥Path00]¥bin¥sample.exe"; (2)
@define-block-end;
# WWWページでデフォルトのWWWブラウザ以外を使用する場合
@define-block type="application-execution-def";
id="company_sample_web";
path="C:¥Program files¥Netscape¥bin¥netscape.exe"; (3)
@define-block-end;
```

- (1) バージョンは「"0300"」だけを指定できます。
- (2) []で囲まれた部分をレジストリーキーから解決します。
- (3) レジストリー情報にパスがない場合は、フルパスを指定します。

3.2.3 定義ファイルを有効にする

定義ファイルが有効になる契機は、ファイルによって異なります。有効になる契機を次に示します。

3. JP1/IM - View に表示された JP1 イベントからアプリケーションを起動する

表 3-1 定義ファイルが有効になる契機

定義ファイル名	有効になる契機
アプリケーション実行定義ファイル	JP1/IM - View の再起動時
モニター画面呼び出し定義ファイル	JP1/IM - Manager の再起動時

4

[統合機能メニュー] 画面に 新規メニューを追加する

この章では、JP1/IM - View の [統合機能メニュー] 画面に新規メニューを追加して、アプリケーションプログラムの画面や WWW ページを起動できるようにする機能の概要、前提条件、および作業手順について説明します。

4.1 機能の解説

4.2 新規メニューを追加する手順

4.1 機能の解説

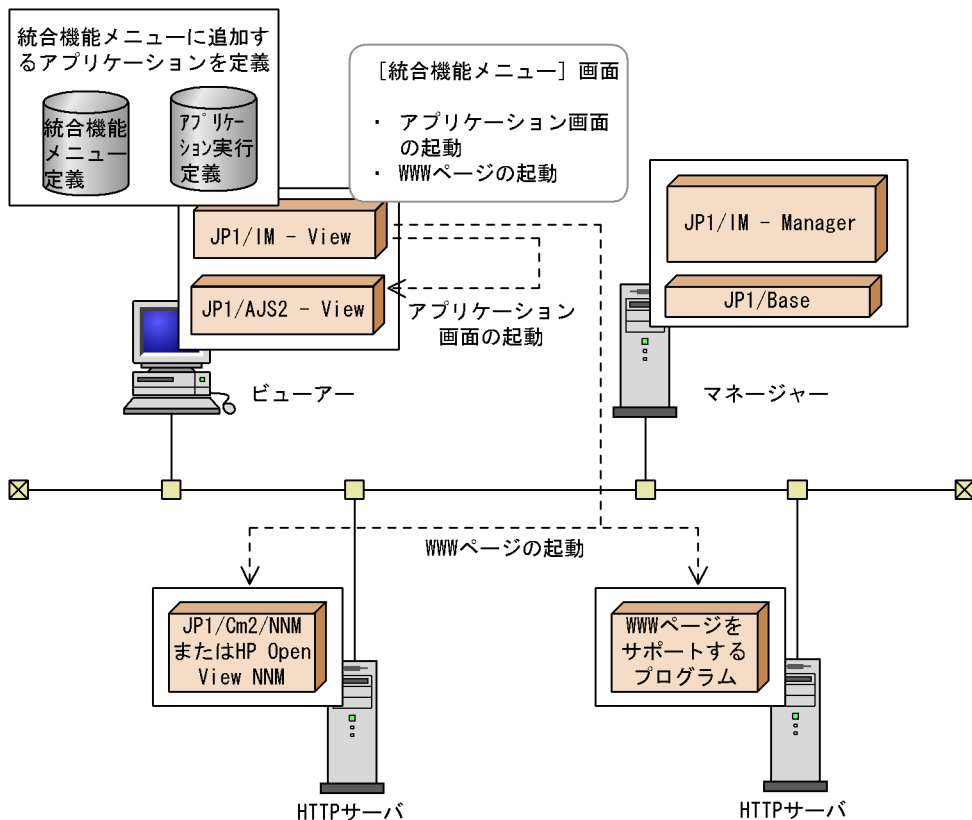
JP1/IM - View の [統合機能メニュー] 画面には、JP1/IM と連携するプログラムが一覧表示されます。このメニューから、ほかの管理アプリケーションプログラムや WWW ページを起動できます。

JP1/IM - View の定義ファイルをカスタマイズすることにより、この [統合機能メニュー] 画面に新しいメニューを追加できます。新しいメニューから起動する画面には、次の画面を指定できます。

- アプリケーションプログラムの画面
アプリケーションプログラムの画面を起動するためには、実行ファイルを指定します。
- WWW ページ
WWW ページを起動するためには、URL を指定します。

[統合機能メニュー] 画面への新規メニューの追加の概要を次の図に示します。

図 4-1 [統合機能メニュー] 画面への新規メニューの追加



4.1.1 前提条件

アプリケーションプログラムの画面を起動するためには、起動する実行ファイルを JP1/IM - View がインストールされているマシン上に配置する必要があります。また、起動するアプリケーションプログラムの画面が実行できる権限で JP1/IM - View を起動する必要があります。

WWW ページを起動するためには、URL で指定するホスト（WWW ページを提供している製品がインストールされたホスト）上に HTTP サーバが必要です。

4.2 新規メニューを追加する手順

[統合機能メニュー]画面に新規メニューを追加するための作業手順を示します。作業の流れは次のとおりです。

1. [統合機能メニュー]画面から起動する画面を決める
2. 定義ファイルを作成する
JP1/IM・View がインストールされたマシン上に、次の定義ファイルを作成します。
 - 統合機能メニュー定義ファイル
この定義ファイルでは、追加する新規メニューの情報、新規メニューから起動する画面などを定義します。
 - アプリケーション実行定義ファイル
この定義ファイルでは、統合機能メニュー定義ファイルで定義されたアプリケーションのパスを JP1/IM・View で解決するための定義をします。
3. 定義ファイルを有効にする

それぞれの作業の詳細を次項から説明します。

4.2.1 [統合機能メニュー]画面から起動する画面を決める

[統合機能メニュー]画面から起動する画面は、システムやアプリケーションを管理するための画面です。この目的に適した画面を選んでください。

なお、ログイン認証などは共通化できないため、必要であればログインを省略する方法（画面起動コマンドのオプション化）をアプリケーションごとにとる必要があります。

[統合機能メニュー]画面から起動する画面を決める手順を次に示します。

1. [統合機能メニュー]画面に表示する名称と使用する ID を決める
ID はメニュー識別子です。「会社名_製品名」の形式で指定します。ID は、メニュー全体でユニークにしてください。
2. [統合機能メニュー]画面に表示するときのフォルダを決める
既存のフォルダに適切なものがない場合は、フォルダの名称と使用する ID を決めます。ID は、「会社名_製品名」の形式で指定します。ID は、メニュー全体でユニークにしてください。
3. [統合機能メニュー]画面に表示するアイコンを準備する
アイコンは、16 × 16 ピクセルの GIF ファイルとして作成します。アイコンを指定しない場合は、デフォルトのアイコンが使用されます。

4.2.2 定義ファイルを作成する

(1) 統合機能メニュー定義ファイルの作成

(a) 定義する内容

統合機能メニュー定義ファイルには、メニューから起動する画面、メニューツリーの上位ノード、メニューに表示するときの名称などを定義します。

メニューから起動する画面を定義するために、アプリケーション実行定義識別子を指定します。アプリケーション実行定義識別子は、統合機能メニュー定義ファイルで定義した画面を JP1/IM - View で識別するためのものです。したがって、統合機能メニュー定義ファイルで指定するアプリケーション実行定義識別子を、アプリケーション実行定義ファイルに定義する必要があります。指定したアプリケーション実行定義識別子は、アプリケーション実行定義ファイルによってパスが解決され、それによってメニューから画面を起動できるようになります。統合機能メニュー定義ファイルの詳細については、「5.7 統合機能メニュー定義ファイル」を参照してください。アプリケーション実行定義ファイルの詳細については、「5.5 アプリケーション実行定義ファイル」を参照してください。

なお、JP1/IM には、統合機能メニュー定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcofuncfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

(b) 格納場所

この定義ファイルは、ビューアーホスト上の次のディレクトリに格納します。定義は、JP1/IM - View を再起動したあとに有効になります。

Viewパス¥conf¥function¥ja¥

(c) 定義例

ここでは、次の例を示します。

アプリケーション

COMPANY 社の SAMPLE という名称の製品

フォルダの名称と ID

「SAMPLE 管理」, ID = "company_sample_management"

メニューの名称と ID

「SAMPLE 管理画面 (アプリケーション)」, ID="company_sample_naitive"

「SAMPLE 管理画面 (WWW)」, ID="company_sample_web"

アイコンファイル

sample_icon.gif

実行ファイル

4. [統合機能メニュー] 画面に新規メニューを追加する

sample.exe

URL

http://host1/company/sample_url.html

この例では、次のファイル名を使用します。

company_sample_tree.conf

統合機能メニュー定義ファイルの定義例を次に示します。

図 4-2 統合機能メニュー定義ファイルの定義例



- (1) バージョンは「0300」だけを指定できます。
- (2) フォルダのIDを指定します。
- (3) 親フォルダを指定します。「root」は最上位のフォルダです。
- (4) フォルダの名称を指定します。
- (5) メニューのIDを指定します。
- (6) 親フォルダを指定します。
- (7) アイコンファイルを指定します。
- (8) アプリケーション実行定義識別子を指定します。
- (9) デフォルトのWWWブラウザを使用することを指定します。
- (10) 起動するWWWページのURLを指定します。

この定義によって、[統合機能メニュー] 画面のツリー上では、「SAMPLE 管理」という名称のフォルダの下に「SAMPLE 管理画面 (アプリケーション)」および「SAMPLE 管

理画面 (WWW) という名称のメニューが定義した順序で表示されるようになります。

(2) アプリケーション実行定義ファイルの作成

(a) 定義する内容

アプリケーション実行定義ファイルには、統合機能メニュー定義ファイルで定義されたアプリケーション実行定義識別子とパスの関連づけを定義します。アプリケーション実行定義ファイルの詳細については、「5.5 アプリケーション実行定義ファイル」を参照してください。

なお、JP1/IM には、アプリケーション実行定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcoappexecfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

(b) 格納場所

この定義ファイルは、ビューアーホスト上の次のディレクトリに格納します。定義は、JP1/IM - View を再起動したあとに有効になります。

Viewパス¥conf¥appexecute¥ja¥

(c) 定義例

ここでは、モニター画面呼び出しをする場合と同じ例を使用します。この例では、次のファイル名を使用します。

company_sample_app.conf

アプリケーション実行定義ファイルの定義例を次に示します。

図 4-3 アプリケーション実行定義ファイルの定義例

```

@file type="application-execution-definition", version="0300"; (1)
# アプリケーションプログラム画面起動sample.exeコマンドの定義
@define-block type="application-execution-def";
id="company_sample";
path="[%HKEY_LOCAL_MACHINE%SOFTWARE%COMPANY%SAMPLE%PathName%Path00]%bin%sample.exe"; (2)
@define-block-end;
# WWWページでデフォルトのWWWブラウザ以外を使用する場合
@define-block type="application-execution-def";
id="company_sample_web";
path="C:%Program files%Netscape%bin%netscape.exe"; (3)
@define-block-end;

```

- (1) バージョンは「0300」だけを指定できます。
- (2) []で囲まれた部分をレジストリキーから解決します。
- (3) レジストリ情報にパスがない場合は、フルパスを指定します。

4. [統合機能メニュー] 画面に新規メニューを追加する

4.2.3 定義ファイルを有効にする

定義ファイルが有効になる契機は、ファイルによって異なります。有効になる契機を次に示します。

表 4-1 定義ファイルが有効になる契機

定義ファイル名	有効になる契機
統合機能メニュー定義ファイル	JP1/IM - View の再起動時
アプリケーション実行定義ファイル	JP1/IM - View の再起動時

5

定義ファイル

この章では、機能を拡張するために使用する JP1/IM の定義ファイルについて説明します。

-
- 5.1 定義ファイル一覧
 - 5.2 定義ファイルの構造
 - 5.3 イベント拡張属性定義ファイル
 - 5.4 オブジェクトタイプ定義ファイル
 - 5.5 アプリケーション実行定義ファイル
 - 5.6 モニター画面呼び出し定義ファイル
 - 5.7 統合機能メニュー定義ファイル
-

5.1 定義ファイル一覧

JP1/IM で機能を拡張するために使用する JP1/IM の定義ファイルを次に示します。

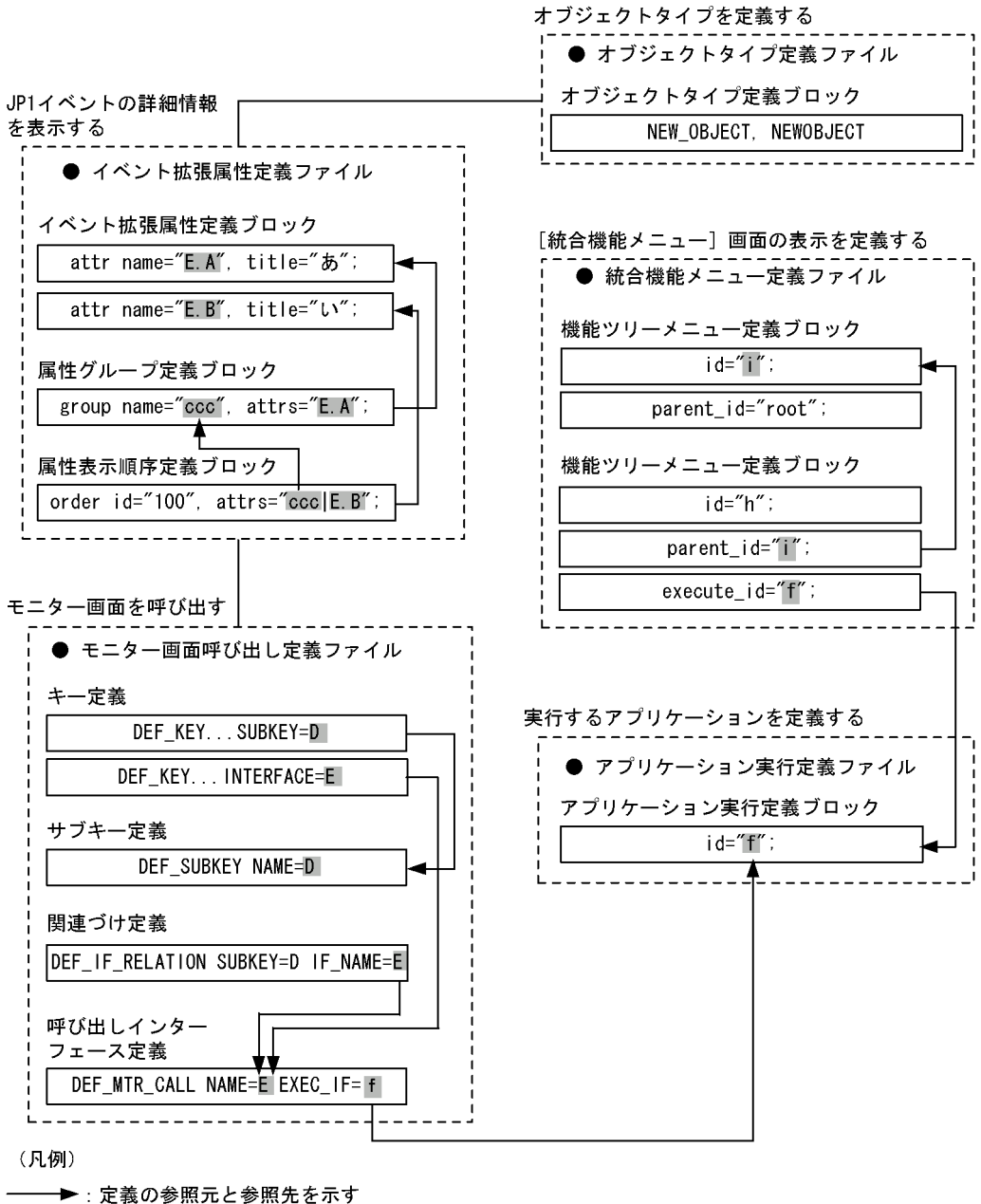
表 5-1 定義ファイル一覧

定義ファイル名	説明
イベント拡張属性定義ファイル	JP1 イベントの拡張属性を定義する
オブジェクトタイプ定義ファイル	JP1 イベントの拡張属性のオブジェクトタイプを定義する
アプリケーション実行定義ファイル	ビューアーで実行するアプリケーションの ID とパスを定義する
モニター画面呼び出し定義ファイル	モニター画面呼び出しの設定を定義する
統合機能メニュー定義ファイル	統合機能メニューに表示するツリーを定義する

5.1.1 定義ファイルの関連

定義ファイルの中で、定義を記述するブロック間には関連があります。また、定義ファイル間にも関連があります。それらの関連を次の図に示します。

図 5-1 定義ブロックおよび定義ファイルの関連



5.1.2 定義ファイルの命名規則

定義ファイルの命名規則を次に示します。

5. 定義ファイル

表 5-2 定義ファイルの命名規則

定義ファイル名	命名規則
イベント拡張属性定義ファイル	会社名_製品名_attr_ja.conf
オブジェクトタイプ定義ファイル	会社名_製品名_obj.ja
アプリケーション実行定義ファイル	会社名_製品名_app.conf
モニター画面呼び出し定義ファイル	会社名_製品名_mon_ja.conf
統合機能メニュー定義ファイル	会社名_製品名_tree.conf

注

「製品名」は、「シリーズ名_製品名」とすることもできます。JP1 イベント発行時の「PRODUCT_NAME」に指定する値の「/」を「_」に変更してファイル名に使用することをお勧めします。また、標準提供ファイル名称用に「hitachi」を使用しているため、「会社名」には「hitachi」以外の名称を使用してください。

5.1.3 定義ファイルの格納先

それぞれの定義ファイルの格納先を次に示します。

表 5-3 定義ファイルの格納先

定義ファイル名	格納先
イベント拡張属性定義ファイル	JP1/IM・Manager がインストールされたマシン
モニター画面呼び出し定義ファイル	JP1/IM・Manager がインストールされたマシン
オブジェクトタイプ定義ファイル	JP1/IM・Manager がインストールされたマシン
アプリケーション実行定義ファイル	JP1/IM・View がインストールされたマシン
統合機能メニュー定義ファイル	JP1/IM・View がインストールされたマシン

それぞれの定義ファイル格納ディレクトリを示します。

(1) 格納先が JP1/IM - Manager の場合

JP1/IM・Manager がインストールされたマシンの定義ファイル格納ディレクトリは次のとおりです。

表 5-4 JP1/IM - Manager 上の定義ファイル格納ディレクトリ (Windows の場合)

定義ファイル名	格納ディレクトリ
イベント拡張属性定義ファイル	Console パス ¥conf¥console¥attribute¥
	共有フォルダ ¥jplcons¥conf¥console¥attribute¥

定義ファイル名	格納ディレクトリ
モニター画面呼び出し定義ファイル	Console パス ¥conf¥console¥monitor¥
	共有フォルダ ¥jplcons¥conf¥console¥monitor¥
オブジェクトタイプ定義ファイル	Console パス ¥conf¥console¥object_type¥
	共有フォルダ ¥jplcons¥conf¥console¥object_type¥

表 5-5 JP1/IM - Manager 上の定義ファイル格納ディレクトリ (UNIX の場合)

定義ファイル名	格納ディレクトリ
イベント拡張属性定義ファイル	/etc/opt/jplcons/conf/console/attribute/
	共有ディレクトリ /jplcons/conf/console/attribute/
モニター画面呼び出し定義ファイル	/etc/opt/jplcons/conf/console/monitor/
	共有ディレクトリ /jplcons/conf/console/monitor/
オブジェクトタイプ定義ファイル	/etc/opt/jplcons/conf/console/object_type/
	共有ディレクトリ /jplcons/conf/console/object_type/

(2) 格納先が JP1/IM - View の場合

JP1/IM - View 上の定義ファイル格納ディレクトリは次のとおりです。

表 5-6 JP1/IM - View 上の定義ファイル格納ディレクトリ

定義ファイル名	格納ディレクトリ
アプリケーション実行定義ファイル	View パス ¥conf¥appexecute¥ja¥
統合機能メニュー定義ファイル	View パス ¥conf¥function¥ja¥

5.1.4 定義ファイルが有効になる契機

定義ファイルが有効になる契機は、ファイルによって異なります。有効になる契機を次に示します。

表 5-7 定義ファイルが有効になる契機

定義ファイル名	有効になる契機
イベント拡張属性定義ファイル	JP1/IM - Manager の再起動時
オブジェクトタイプ定義ファイル	JP1/IM - View の再起動時
アプリケーション実行定義ファイル	JP1/IM - View の再起動時
モニター画面呼び出し定義ファイル	JP1/IM - Manager の再起動時

5. 定義ファイル

定義ファイル名	有効になる契機
統合機能メニュー定義ファイル	JP1/IM - View の再起動時

5.1.5 モデルファイル

アプリケーション実行定義ファイルおよび統合機能メニュー定義ファイルには、モデルファイルが提供されます。モデルファイルには、「.model」という拡張子が付いています。インストール時に、「.model」という拡張子のファイルと、内容が同じで拡張子を「.conf」に変更したファイルの二つが所定のディレクトリにコピーされます。定義ファイルをカスタマイズしたあと、デフォルトの設定に戻りたい場合は、デフォルトのモデルファイルをコピーして拡張子の「.model」部分を削除してください。

提供されるモデルファイルを次に示します。

表 5-8 モデルファイル一覧

定義ファイル名	モデルファイル名
アプリケーション実行定義ファイル	!JP1_CC_APP0.conf.model
統合機能メニュー定義ファイル	!JP1_CC_FTREE0.conf.model

5.2 定義ファイルの構造

この節では、[イベントコンソール] 画面、[統合機能メニュー] 画面と連携するためにカスタマイズできる JP1/IM の定義ファイルに共通する事項について説明します。

なお、この節の説明は次の三つの定義ファイルだけに該当します。

- イベント拡張属性定義ファイル
- アプリケーション実行定義ファイル
- 統合機能メニュー定義ファイル

オブジェクトタイプ定義ファイルおよびモニター画面呼び出し定義ファイルは、それぞれ構造が異なります。

5.2.1 定義ファイルの構成要素

定義ファイルを構成する要素には、大きく分けて、ステートメント、ブロック、およびコメントがあります。定義ファイルは、そのファイル全体の属性を表すステートメント（定義情報ヘッダー）から開始し、定義内容を記述するブロック、および任意選択のコメントが続きます。

定義ファイルを構成するこれらの要素について説明します。

(1) ステートメント

(a) ステートメントの構造

ステートメントとは、複数の構成要素が組み合わされて一つの意味を形成するようになった列のことです。ステートメントは必ず行頭から開始しなければなりません。また、ステートメントは「;」と改行で区切らなければなりません。

(b) ステートメントの種別

ステートメントは、記述できる場所によって「ファイル内ステートメント」と「ブロック内ステートメント」に分けられます。

ファイル内ステートメント

ファイル内ステートメントは、定義ファイルの属性を表すステートメントです。

ファイル内ステートメントには、さらに「定義情報ヘッダー用ステートメント」と「ブロック制御用ステートメント」の二つがあります。

ファイル内ステートメントには「@」のプリフィックスが付きます。

ブロック内ステートメント

ブロック内ステートメントは、ブロック内の属性を表すステートメントです。

ブロック内ステートメントは、ブロック開始ステートメント（@define-block）からブロック終了ステートメント（@define-block-end）までの間に記述できるステートメントのうち、コメント以外のものを指します。記述できるブロック内ステートメント

5. 定義ファイル

トは、ブロックごとに決まっています。

ブロック内ステートメントには「@」などのプリフィックスは付きません。

(2) ブロック

(a) ブロックの構造

ブロックはステートメントの集合体です。ブロックは、ブロックの開始を宣言するステートメント (@define-block), 実際の定義を記述するブロック内ステートメント, コメント, およびブロックの終了を宣言するステートメント (@define-block-end) によって構成されます。

定義ファイルの中でブロックをネストすることはできません。

(b) ブロックの種別

ブロック種別は、ブロック開始ステートメント (@define-block) の「type=」パラメーターで指定します。ブロック種別の詳細については、「(4) (a) @define-block ステートメント」を参照してください。

(c) ブロックの優先順位

ブロックには、定義内でユニークでなければならないキー項目があります。キー項目が定義内に複数個存在した場合は、優先順位に従ってブロック単位で取捨選択されます。ブロックの優先順位は次のようになります。

1. ファイル名を昇順にソートして後の方のファイル内のブロック
2. ファイル内で記述場所が後ろの方に存在するブロック

言い換えると、「定義ファイルをファイル名で昇順にソートして一つのファイルに連結し、連結したファイル内で後に記述されているものが優先される」ということになります。

(3) コメント

コメントとは、行頭が「#」のステートメント、または1行が空白、タブ、または改行だけで構成される行です。コメントは定義情報としての意味を持ちません。

コメントは一つのステートメントとして処理されます。コメントは行単位で判断されるので、「;」で区切る必要はありません。コメントの末尾に「;」を付けた場合は、「;」もコメントの一部として解釈されます。

(4) 共通ステートメントの生成規則

ファイル内ステートメントには、定義情報ヘッダー用ステートメントとブロック制御用ステートメントの二つがあります。

ファイル内ステートメントの一覧を次に示します。

表 5-9 ファイル内ステートメントの一覧

ステートメント名	意味	種別
@file	定義バージョン, 文字コードを宣言する	定義情報ヘッダー用
@product	定義中の PP 情報を宣言する	定義情報ヘッダー用
@define-block	ブロックの開始を宣言する	ブロック制御用
@define-block-end	ブロックの終了を宣言する	ブロック制御用

これらのステートメントのうち、定義情報ヘッダー用ステートメントは、一つの定義ファイル全体に共通する属性を定義します。使用できる定義情報ヘッダー用ステートメントは定義ファイルごとに異なります。また、定義情報ヘッダー用ステートメントのパラメーターも、定義ファイルごとに異なります。

ブロック制御用ステートメントは、その定義ファイル内で定義するブロックの単位を宣言するために使用します。ブロック制御用ステートメントの生成規則は、すべての定義ファイルで共通です。

このあとに、ブロック制御用ステートメントの生成規則を示します。定義情報ヘッダー用ステートメントの生成規則については、個々の定義ファイルの説明を参照してください。

(a) @define-block ステートメント

構文

```
@define-block type=" ブロック種別 ";
```

機能

ブロックの開始を宣言します。このステートメントから @define-block-end ステートメントまでを一つの定義ブロックとして扱います。

パラメーター

- type=" ブロック種別 "

定義ブロックの種類を指定します。指定できるブロック種別を次に示します。

表 5-10 ブロック種別一覧

ブロック名	パラメーターでの指定値
イベント属性定義ブロック	"event-attr-def"
イベント属性グループ定義ブロック	"event-attr-group-def"
イベント表示順序定義ブロック	"event-attr-order-def"
アプリケーション実行定義ブロック	"application-execution-def"
機能ツリーメニュー定義ブロック	"function-tree-def"

5. 定義ファイル

無効なブロック種別が指定された場合は、ブロック全体が無視されて警告が表示されませんが、ファイルの解析処理は続行されます。

注意事項

定義ブロックをネストすることはできません。

定義例

@define-block-end ステートメントの説明を参照してください。

(b) @define-block-end ステートメント

構文

```
@define-block-end;
```

機能

@define-block から始まる定義ブロックの終了を宣言します。

注意事項

対応する @define-block ステートメントがない場合は、ファイルの解析処理を中止します。

定義例

@define-block ステートメントおよび @define-block-end ステートメントの定義例を示します。

```
@define-block type="event-attr-def";  
block lang="Japanese", platform="base";  
attr name="E.SEVERITY", title="重大度";  
attr name="B.TIME", title="登録時刻";  
attr name="B.SOURCESERVER", title="登録ホスト";  
attr name="E.USER_NAME", title="ユーザー名";  
@define-block-end;
```


5.3 イベント拡張属性定義ファイル

イベント拡張属性定義ファイルは、[イベント詳細] 画面に表示するイベント属性の並び順や表示する属性名を定義します。

イベント拡張属性定義ファイルには、次の3種類のファイルがあります。

- すべてのイベントに共通の基本属性、および拡張属性の共通情報に対するイベント詳細情報定義（標準提供：default.conf）
- JP1 イベントを発行する連携製品の拡張属性の固有情報定義（標準提供：hitachi_xxxx.conf）
- ユーザー定義の拡張属性の固有情報（ユーザーが個別作成）

標準提供される2種類のファイルは JP1/IM - Manager の定義ファイル格納ディレクトリに格納されています。この2種類のファイルはシステム標準定義情報であるため、ユーザーが追加、変更、削除することはできません。

新たに JP1 イベントに対する拡張属性の固有情報を追加する場合は、この定義ファイル格納ディレクトリに「表 5-2 定義ファイルの命名規則」の名称基準に従って作成した定義ファイルを格納してください。

この定義ファイルを作成する場合、次のことに注意してください。

- Linux 版の JP1/IM - Manager では UTF-8 コード、Linux 版以外の JP1/IM - Manager ではシフト JIS、または EUC コードで定義する必要があります。
- 定義ファイルに誤って基本属性や拡張属性の共通情報を定義すると、[イベント詳細] 画面を表示したときに標準提供の定義と重複して表示されます。

なお、JP1/IM には、イベント拡張属性定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcoattrfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

イベント拡張属性定義ファイルには、次のステートメントとブロックを記述できます。

表 5-11 イベント拡張属性定義ファイルに記述できるステートメントおよびブロック

ステートメントまたはブロック	意味
@file ステートメント	定義ファイルタイプおよびバージョンを宣言する
@product ステートメント	定義中のプログラム情報を宣言する
イベント拡張属性定義ブロック	イベント属性の表示について定義する
属性グループ定義ブロック	イベント属性のグループを定義する
属性表示順序定義ブロック	[イベント詳細] 画面表示時の順序を ID ごとに定義する

5.3.1 ファイル内ステートメントの生成規則

(1) @file ステートメント

(a) 構文

```
@file type="extended-attributes-definition", version="0300";
```

(b) 説明

この定義ファイルがイベント拡張属性定義ファイルであること、および定義記述フォーマットのバージョンが 0300 であることを宣言します。このステートメントは必須です。

(c) 注意事項

- このステートメントは、ファイルの先頭行に記述しなければなりません。記述しない場合、動作は保証できません。

(2) @product ステートメント

(a) 構文

```
@product name=" プロダクト名 ";
```

(b) 説明

ファイル内で定義する各ステートメントのプロダクト情報を定義します。

(c) パラメーター

```
name=" プロダクト名 "
```

プロダクト名は、スラントで区切られた半角英数字列です。次のどちらかの形式になります。

/会社名/シリーズ名/プロダクト名

または

/会社名/プロダクト名

(d) 注意事項

- 指定値は、JP1 イベントの拡張属性「PRODUCT_NAME」と一致させる必要があります。
- 解析処理では、使用禁止文字や形式はチェックされません。指定した文字列がそのまま使用されます。

(e) 定義例

定義情報ヘッダー用ステートメントの定義例を次に示します。

```
@file type="extended-attributes-definition", version="0300";  
@product name="/HITACHI/JP1/CentralConsole";  
@define-block type="event-attr-def";  
block lang="Japanese", platform="NT";  
attr name="E.SAMPLE_TIME", title="サンプル時刻";
```

```
attr name="E.SAMPLE_HOST", title="サンプルホスト";
attr name="E.SAMPLE_USER", title="サンプルユーザー";
@define-block-end;
```

5.3.2 イベント拡張属性定義ファイルのブロックの生成規則

イベント拡張属性定義ファイルに記述できるブロックについて説明します。なお、それぞれのブロックに記述できるステートメント以外のステートメントを記述した場合は、エラー出力され、該当するステートメントだけが無視されます。

(1) イベント拡張属性定義ブロック

(a) 説明

[イベント詳細] 画面で、イベント属性名とその表示項目名（日本語名と英語名の両方）を関連づけます。このブロックは、定義ファイル内に複数個記述できます。ただし、ブロックのキーとなる属性（後述の block ステートメントの指定値）が同じブロックは、複数個記述することはできません。

なお、日本語と英語の両方を指定する場合は、後述の attr ステートメントの属性名が日本語と英語ですべて対応している必要があります。

(b) 記述できるステートメント種別

このブロックには、次のステートメントを記述できます。

- block ステートメント
- attr ステートメント

(2) 属性グループ定義ブロック

(a) 説明

イベント拡張属性定義ブロックで定義したイベント属性をグループ化します。グループ化することにより、属性表示順序定義ブロック内の order ステートメントで属性を何度も定義する必要がなくなります。

このブロックは省略できます。

(b) 記述できるステートメント種別

このブロックには、次のステートメントを記述できます。

- block ステートメント
- group ステートメント

(3) 属性表示順序定義ブロック

(a) 説明

イベント単位でそのイベントが詳細表示されたときに表示するイベント属性の順序や属

5. 定義ファイル

性の表示名の順序を定義します。

(b) 記述できるステートメント種別

このブロックには、次のステートメントを記述できます。

- block ステートメント
- order ステートメント

5.3.3 イベント拡張属性定義ブロック内のステートメント生成規則

(1) block ステートメント

(a) 構文

block lang= 言語種別 , platform= プラットフォーム種別 ;

(b) 説明

ブロックの属性を定義します。このステートメントは、ブロックの先頭に1回だけ記述できます。

(c) パラメーター

lang

イベント拡張属性定義ブロックの言語種別を宣言します。指定できる言語種別を次に示します。

- "Japanese"
日本語環境時の定義であることを示します。
- "English"
英語環境時の定義であることを示します。

platform

ブロック内の定義が有効になるプラットフォームを指定します。
定義できるプラットフォームを次に示します。

- "base"
すべてのプラットフォームで有効にする場合に使用します。
- "ユーザー定義"
ユーザー定義のプラットフォームで有効になります。「ユーザー定義」には、半角英数字列だけを使用できます。ただし、この文字列についてエラーチェックは実行されません。

(d) 注意事項

- platform パラメーターで指定したプラットフォーム名称は、JP1 イベントの拡張属性「PLATFORM」と比較され、一致した場合にだけ詳細情報の処理の対象になります。したがって、ここに指定するプラットフォーム名と同一の文字列がJP1 イベントの拡張

属性「PLATFORM」にない場合は、処理の対象になりません。ただし、JP1 イベントの発行時に拡張属性「PLATFORM」を設定していない場合は、「"base"」が指定されたものとしてファイルの解析が実行されます。

(e) 定義例

次の「(2) attr ステートメント」の定義例を参照してください。

(2) attr ステートメント

(a) 構文

```
attr name= 属性名 , title= 表示項目名 [,type="elapsed_time/  
date_format:CLIENT"];
```

(b) 説明

[イベント詳細] 画面の属性名欄に表示する項目名と、属性値のタイプを指定します。このステートメントはブロック内に複数個指定できます。

(c) パラメーター

name

拡張属性名を定義します。値の形式は次のとおりです。
"E. 拡張属性名 "

title

[イベント詳細] 画面表示時の属性名欄に表示する文字列を指定します。その際には、block ステートメントで指定した言語種別が使用されます。指定文字列に半角仮名を含めることはできません。

type="elapsed_time/date_format:CLIENT"

属性値のタイプと表示形式を指定します。属性値「elapsed_time」は、UTC 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの経過秒数を 10 進文字列で表記した値です。表示形式「date_format:CLIENT」は、表示するビューアーホストのローカルタイムゾーンで指定された時刻を使用して、時刻形式で書式化して表示することを示します。

(d) 注意事項

- このステートメントで定義するのは、基本属性、および拡張属性の共通情報を除いた拡張属性の固有情報だけです。拡張属性の固有情報以外が指定された場合、エラーは出力されずに処理が続行されますが、表示時には標準提供の定義と重複して表示されます。標準提供の定義については、次の「(2)(e) 定義例」を参照してください。

(e) 定義例

JP1 イベントの拡張属性の固有情報定義例を示します。プラットフォームが"W2K"で下記表の四つの拡張属性(固有情報)を表示させたい場合の「イベント拡張属性定義ブロック」の定義例を示します。

表 5-12 イベント拡張属性定義ブロックの定義例

画面表示名	拡張属性名 (固有情報)
SAMPLE 共通属性 1	COMMON_ATTR1
SAMPLE 共通属性 2	COMMON_ATTR2
SAMPLE 開始属性 1	START_ATTR1
SAMPLE 開始属性 2	START_ATTR2

定義例

```
@define-block type="event-attr-def";
block lang="Japanese", platform="w2k";
attr name="E.COMMON_ATTR1", title="SAMPLE共通属性1";
attr name="E.COMMON_ATTR2", title="SAMPLE共通属性2";
attr name="E.START_ATTR1", title="SAMPLE開始属性1";
attr name="E.START_ATTR2", title="SAMPLE開始属性2";
@define-block-end;
```

5.3.4 属性グループ定義ブロック内のステートメント生成規則

(1) block ステートメント

(a) 構文

block platform= プラットフォーム種別;

(b) 説明

ブロックの属性を定義します。このステートメントは、ブロックの先頭に 1 回だけ記述できます。

(c) パラメーター

platform

ブロック内の定義が有効になるプラットフォームを指定します。指定できる値を次に示します。

- "base"

すべてのプラットフォームで有効にする場合に使用します。

- "ユーザー定義"

ユーザー定義のプラットフォームで有効になります。「ユーザー定義」には、半角英数字列だけを使用できます。ただし、この文字列についてエラーチェックは実行されません。

(d) 注意事項

- このブロックには lang パラメーターは使用できません。

- platform パラメーターで指定したプラットフォーム名称は、JP1 イベントの拡張属性「PLATFORM」と比較され、一致した場合にだけ詳細情報の処理の対象となります。したがって、ここに指定するプラットフォーム名と同一の文字列がイベントの拡張属性「PLATFORM」にない場合は、処理の対象となりません。ただし、JP1 イベントの発行時に拡張属性「PLATFORM」を設定していない場合は、「base」が指定されたものとしてファイルの解析が実行されます。

(e) 定義例

次の「(2) group ステートメント」の定義例を参照してください。

(2) group ステートメント

(a) 構文

group name= グループ名, attrs= 属性名並び;

(b) 説明

[イベント詳細] 画面上に表示する属性の並び順に名称を付けてグループ化します。このステートメントはブロック内に複数個指定できます。

(c) パラメーター

name

属性名並びに付ける名称を指定します。名称は、32 バイト以内の半角英数字で指定します。大文字と小文字は区別されません。ここで付けた名称は、定義ファイル内の order ブロック中で使用できます。

attrs

グループ化する属性を一つ以上並べて指定します。複数個並べた場合は、[イベント詳細] 画面上からその順序で表示されます。指定形式は次のとおりです。

一つの場合：attrs="E.A0"

複数の場合：attrs="E.A0|E.A1"

(d) 注意事項

- 指定できる属性は拡張属性の固有情報だけです。基本属性または拡張属性の共通情報を指定した場合は、指定した属性値が [イベント詳細] 画面上に複数個表示されます。

(e) 定義例

JP1 イベントの基本属性および拡張属性の共通情報の定義を示します。これらの定義は、イベント拡張属性定義ファイルに標準で提供されています。

```
@define-block type="event-attr-group-def";
block platform="base";
group name="BASE",
attrs="B.GROUPID|B.GROUPNAME|B.IDBASE|B.PROCESSID|B.SEQNO|B.SOURCE
IPADDR|
B.SOURCESEQNO|B.SOURCESERVER|B.TIME|B.USERID|B.USERNAME|B.ARRIVEDT
```

5. 定義ファイル

```
IME";  
group name="COMMON",  
attrs="E.SEVERITY|E.USER_NAME|E.PRODUCT_NAME|E.OBJECT_TYPE|E.OBJECT_NAME|  
E.ROOT_OBJECT_TYPE|E.ROOT_OBJECT_NAME|E.OBJECT_ID|E.OCCURRENCE|  
E.START_TIME|E.END_TIME|E.RESULT_CODE";  
@define-block-end;
```

5.3.5 属性表示順序定義ブロック内のステートメント生成規則

(1) block ステートメント

(a) 構文

block platform= プラットフォーム種別;

(b) 説明

属性表示順序定義ブロックに依存するブロック属性を定義します。このステートメントは、ブロックの先頭に1回だけ記述できます。

(c) パラメーター

platform

ブロック内の定義が有効になるプラットフォームを指定します。定義できるプラットフォームを次に示します。

- "base"

すべてのプラットフォームで有効にする場合に使用します。

- "ユーザー定義"

ユーザー定義のプラットフォームで有効になります。「ユーザー定義」には、半角英数字だけを使用できます。ただし、この文字列についてエラーチェックは実行されません。

(d) 注意事項

- このブロックでは lang パラメーターは使用できません。
- platform パラメーターで指定したプラットフォーム名称は、JP1 イベントの拡張属性「PLATFORM」と比較され、一致した場合にだけ詳細情報の処理の対象となります。したがって、ここに指定するプラットフォーム名と同一の文字列がイベントの拡張属性「PLATFORM」にない場合は、処理の対象となりません。ただし、JP1 イベントの発行時に拡張属性「PLATFORM」を設定していない場合は、「base」が指定されたものとしてファイルの解析が実行されます。

(e) 定義例

次の「(2) order ステートメント」の定義例を参照してください。

(2) order ステートメント

(a) 構文

order id= イベント ID 定義文字列, attrs= 属性名並び;

(b) 説明

[イベント詳細] 画面上に表示する属性とその並び順を ID ごとに定義します。このステートメントはブロック内に複数個指定できます。

(c) パラメーター

id

attrs パラメーターで指定した順序で属性を表示するイベント ID を一つ以上指定します。

指定形式は次のとおりです。

一つの場合: id="200"

複数の場合: id="100|101|102"

イベント ID は、8 けた以内の 16 進数文字列で指定します。8 けた未満の場合、先頭に 0 を補って 8 けたにする必要はありません。16 進数文字列の英字 (a ~ f) は、大文字と小文字のどちらでもかまいません。

ID の範囲指定はできません。

attrs

表示する属性、グループ、またはその両方が混在したものを並べて指定します。複数個並べた場合は、[イベント詳細] 画面上からその順序で表示されます。

指定形式は次のとおりです。

一つの場合: attrs="E.A0"

複数の場合: attrs="E.A0|E.A1|GROUP1"

group ステートメントの場合と同様に、指定できる属性は固有の拡張属性だけです。

基本属性または共通の拡張属性を指定した場合は、指定した属性値が [イベント詳細] 画面上に複数個表示されます。

(d) 定義例

イベント ID が 00001000 の場合に BASE グループと COMMON グループを表示する定義例を次に示します。

```
@define-block type="event-attr-order-def";
block platform="base";
order id=00001000, attrs="BASE|COMMON"
@define-block-end;
```

5.3.6 イベント拡張属性定義ファイルの定義例

イベント拡張属性定義ファイルの定義例を次に示します。

```
@file type="extended-attributes-definition",version="0300";
@product name="/HITACHI/JP1/SAMPLE";
@define-block type="event-attr-def";
block platform="base", lang="Japanese";
attr name="E.SAMPLE_CLUSTER_NAME", title="クラスター名";
attr name="E.SAMPLE_PRINT_SERVER_NAME", title="プリントサーバ名";
attr name="E.SAMPLE_PRINTER_NAME", title="プリンタ名";
attr name="E.SAMPLE_PORT_NAME", title="ポート名";
@define-block-end;
@define-block type="event-attr-group-def";
block platform="base";
group name="_PRINTER_INFO",
attrs="E.SAMPLE_PRINT_SERVER_NAME|E.SAMPLE_PRINTER_NAME";
group name="_CLUSTER_INFO",
attrs="E.SAMPLE_CLUSTER_NAME|E.SAMPLE_PORT_NAME";
@define-block-end;
@define-block type="event-attr-order-def";
block platform="base";
order id="00003100",attrs="_PRINTER_INFO";
order id="00003101",attrs="_CLUSTER_INFO";
order id="00003102", attrs="_PRINTER_INFO|_CLUSTER_INFO";

@define-block-end;
```

5.3.7 標準提供されているイベント拡張属性定義ファイル

JP1 イベントの基本属性および拡張属性の共通情報の定義を次に示します。これらの定義は、イベント拡張属性定義ファイルとして標準提供されています。

```
@define-block type="event-attr-def";
block lang="Japanese", platform="base";
attr name="B.GROUPID", title="発行元グループID";
attr name="B.GROUPNAME", title="発行元グループ名";
attr name="B.IDBASE", title="イベントID";
attr name="B.PROCESSID", title="発行元プロセスID";
attr name="B.SEQNO", title="イベントDB内通し番号";
attr name="B.SOURCEIPADDR", title="発行元IPアドレス";
attr name="B.SOURCESEQNO", title="発行元イベントDB内通し番号";
attr name="B.SOURCESERVER", title="発行元イベントサーバ名";
attr name="B.TIME", title="登録時刻", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="B.USERID", title="発行元ユーザーID";
attr name="B.USERNAME", title="発行元ユーザー名";
attr name="B.ARRIVEDTIME", title="到着時間", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="E.SEVERITY", title="重要度";
attr name="E.USER_NAME", title="ユーザー名";
attr name="E.PRODUCT_NAME", title="プロダクト名";
attr name="E.OBJECT_TYPE", title="オブジェクトタイプ";
```

```
attr name="E.OBJECT_NAME",          title="オブジェクト名";
attr name="E.ROOT_OBJECT_TYPE",     title="登録名タイプ";
attr name="E.ROOT_OBJECT_NAME",     title="登録名";
attr name="E.OBJECT_ID",            title="オブジェクトID";
attr name="E.OCCURRENCE",           title="事象種別";
attr name="E.START_TIME",           title="開始時刻", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="E.END_TIME",              title="終了時刻", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="E.RESULT_CODE",          title="終了コード";
@define-block-end;
```

5.4 オブジェクトタイプ定義ファイル

オブジェクトタイプ定義ファイルは、JP1/IM - View の画面 ([重要イベント定義] 画面 , [イベント取得条件設定] 画面など) の [オブジェクトタイプ] および [登録名タイプ] に表示するオブジェクトタイプおよび登録名タイプを設定します。

この定義ファイルは、Linux 版の JP1/IM - Manager では UTF-8 コード、Linux 版以外の JP1/IM - Manager ではシフト JIS、または EUC コードで定義する必要があります。

5.4.1 形式

オブジェクトタイプ定義ファイルの形式を次に示します。

```
[コメント]
[ObjectType]
定義ブロック [コメント]
[End]
[コメント]
```

注

ここで、「[ObjectType]」および「[End]」は「[」および「]」を含めてそのまま記述します。

コメントは、「#」で開始する改行を含まない文字列です。

定義ブロックは、拡張属性値とリスト表示文字列で構成されます。拡張属性値は、オブジェクトタイプまたは登録名タイプに格納される文字列です。リスト表示文字列は、ドロップダウンリストに一覧表示する文字列です。

5.4.2 注意事項

- オブジェクトタイプ (拡張属性値) に空白を入れることはできません。
- リスト表示文字列には、日本語ではなく拡張属性値そのものを記述してください。
- 複数のファイルに同一のオブジェクトタイプが存在した場合の動作は保証されません。

5.4.3 定義例

オブジェクトタイプ定義ファイルの定義例を次に示します。

```
[ObjectType]
# 拡張属性値, リスト表示文字列 コメント
ACTION, ACTION // アクション
ACTIONFLOW, ACTIONFLOW // アクションフロー
BATCHQUEUE, BATCHQUEUE // バッチキュー
JOB, JOB // ジョブ
```

```
JOBNET,          JOBNET          // ジョブネット  
MEDIA,           MEDIA            // メディア  
PRINTER,         PRINTER          // プリンタ  
PRINTJOB,        PRINTJOB         // プリントジョブ  
PRINTQUEUE,      PRINTQUEUE       // パイプキュー  
PROCESS,         PROCESS          // プロセス  
RESTORE,         RESTORE          // リストア  
[End]
```

5.5 アプリケーション実行定義ファイル

アプリケーション実行定義ファイルは、[イベントコンソール] 画面から起動するアプリケーションなどの実行形式ファイルの ID とパスを定義するファイルです。

なお、JP1/IM には、アプリケーション実行定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcoappexecfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

アプリケーション実行定義ファイルには、次のステートメントとブロックを記述できません。

表 5-13 アプリケーション実行定義ファイルに記述できるステートメントおよびブロック

ステートメントまたはブロック	意味
@file ステートメント	定義ファイルタイプを宣言する
アプリケーション実行定義ブロック	アプリケーション実行定義識別子と実行形式ファイルのパスの関連を定義する

5.5.1 ファイル内ステートメントの生成規則

(1) @file ステートメント

(a) 構文

```
@file type="application-execution-definition";
```

(b) 説明

この定義ファイルがアプリケーション実行定義ファイルであることを宣言します。このステートメントは必須です。

(c) 注意事項

- このステートメントは、ファイルの先頭行に記述しなければなりません。

5.5.2 アプリケーション実行定義ファイルのブロックの生成規則

(1) アプリケーション実行定義ブロック

(a) 説明

[イベントコンソール] 画面から起動するアプリケーションなどの実行形式ファイルのパスを定義し、ほかの定義ファイルからリンクするための ID 付けをします。

(b) 記述できるステートメント

このブロックには次のステートメントを記述できます。

- id ステートメント
- path ステートメント
- description ステートメント

上記以外のステートメントが記述された場合は、エラー出力し、該当するステートメントだけを無視します。

(c) 指定値

path ステートメントで指定できる実行形式ファイルは、.exe または .bat ファイルです。

(d) 注意事項

コマンド実行時のカレントディレクトリは不定です。カレントディレクトリから相対パスを意識するコマンドなどは指定できません。.bat ファイルなどで cd コマンドを実行した後、実行するようにしてください。

5.5.3 アプリケーション実行定義ブロック内のステートメント生成規則

(1) id ステートメント

(a) 構文

```
id="アプリケーション実行定義識別子";
```

(b) 説明

このブロックで指定するコマンドパスに ID を付けます。このステートメントは必須です。このステートメントは、ブロック内で 1 回だけ記述できます。

(c) 指定値

アプリケーション実行定義識別子は、32 バイト以内の半角英数字で構成される文字列です。この文字列は定義内でユニークでなければなりません。ユニーク性を保持するために、次の命名規則に従ってください。

```
会社名_製品名[_機能名(または画面名)]
```

(d) 注意事項

- 「jco_」で始まる文字列、および「default_browser」は、アプリケーション実行定義識別子として予約されているため、使用できません。
- 同一の「id」を持つブロックが解析対象のファイル内に複数個存在した場合、次の順に優先順位が決定され、最優先のブロックが有効になります。

5. 定義ファイル

1. ファイル名を昇順でソートして後の方のブロック
2. ファイル内の位置が後の方のブロック

それ以外のブロックは無効になります。

(e) 定義例

「(3) description ステートメント」の定義例を参照してください。

(2) path ステートメント

(a) 構文

```
path=" コマンドパス ";
```

(b) 説明

id ステートメントで指定したアプリケーション実行定義識別子と関連づける実行形式ファイルのパスを定義します。このステートメントは必須です。このステートメントは、同一ブロック中に複数個指定できます。

(c) 指定値

起動する実行形式ファイルのフルパスを指定します。後述の置き換えキーワードを使用して、レジストリーなどからパスを組み立てることもできます。

(d) 注意事項

- このステートメントを複数個指定した場合は、記述順にパスが検索され、最初に見つかったパスが使用されます。
- 検索処理は JP1/IM - View の起動時にだけ実行されます。そのため、起動対象となるアプリケーションを JP1/IM - View の実行中にインストールした場合は、JP1/IM - View を再起動する必要があります。

(e) 定義例

次の「(3) description ステートメント」の定義例を参照してください。

(3) description ステートメント

(a) 構文

```
description=" アプリケーション実行の説明文 ";
```

(b) 説明

ブロック内のアプリケーション実行定義に説明を付加します。このステートメントは、ブロック内で 1 回だけ記述できます。

(c) 指定値

アプリケーション実行の説明文を指定します。文字数の制限はありませんが、50 文字以内をすることをお勧めします。

(d) 定義例

```
@define-block type="application-execution-def";
id="HITACHI_JP1_SAMPLE";
path="C:¥Program Files¥HITACHI¥JP1¥bin¥sample.exe";
description="日立のサンプルプログラム";
@define-block-end;
```

5.5.4 置換文字列

path ステートメントには、実行時に置き換え可能な置換文字列を指定できます。

(1) キーワード置換文字列

指定された定義内にキーワード置換文字列が存在する場合は、記述されたキーワードに従って文字列の置換が実行されます。形式を次に示します。

%置き換えキーワード%

置き換えキーワードの一覧を次に示します。

表 5-14 置き換えキーワードの一覧

キーワード	置換する内容
JCO_JP1USER	JP1/IM・Manager にログインした JP1 のユーザー
JCO_INSTALLPATH	JP1/IM・View のインストールフォルダの名称

(2) レジストリー置換文字列

定義内にレジストリー置換文字列を指定すると、記述されたレジストリーから値を取得して文字列の置換が実行されます。レジストリー置換文字列の形式を次に示します。

[¥レジストリーキー¥レジストリーキー¥...¥レジストリー値]

レジストリー置換文字列の中には、さらに、レジストリー専用の置き換えキーワード「%UPPER%」を使用できます。「%UPPER%」を使用すると、レジストリーキーの中で同一階層のキーの中からキー名称で文字列比較が実行され、最も大きな文字列を選択して置換が実行されます。このキーワードの目的は、レジストリーキー内でバージョンごとにキーを分けているときに、常に最新のバージョンが得られるようにすることです。

「%UPPER%」は、レジストリー文字列内に 1 か所だけ指定できます。次に、「%UPPER%」を使用して JP1/SAMPLE のレジストリーを指定する例を示します。

```
[¥HKKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥SAMPLE¥%UPPER%¥PATHNAME¥PATH00]
```

5. 定義ファイル

このように指定すると、「%UPPER%」の部分が最新バージョンに置き換えられ、常に最新の実行形式ファイルが得られます。

例えば、レジストリーキーに

```
[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥SAMPLE¥0671¥PATHNAME¥PATH00]  
[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥SAMPLE¥0700¥PATHNAME¥PATH00]
```

の二つが存在した場合、「0700」>「0671」となるため、

```
[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥SAMPLE¥0700¥PATHNAME¥PATH00]
```

のレジストリーから値を取得します。

5.5.5 アプリケーション実行定義ファイルの定義例

アプリケーション実行定義ファイルの定義例を次に示します。

```
@file type="application-execution-definition", version="0300";  
#-----  
@define-block type="application-execution-def";  
id="jco_notepad";  
path="C:¥winnt40¥system32¥notepad.exe";  
@define-block-end;  
#-----  
@define-block type="application-execution-def";  
id="jco_dmp";  
path="[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P¥0521/  
A¥PathName¥Path00]¥bin¥DMPSTS.exe";  
@define-block-end;
```

5.6 モニター画面呼び出し定義ファイル

モニター画面呼び出し定義ファイルは、[イベントコンソール] 画面からイベント発行元などのモニター画面を呼び出すための定義ファイルです。この定義ファイルは、イベント ID や属性などの情報からキーを作り、イベント属性からコマンドラインパラメーターを作成するために使用します。

この定義ファイルは、Linux 版の JP1/IM - Manager では UTF-8 コード、Linux 版以外の JP1/IM - Manager ではシフト JIS、または EUC コードで定義する必要があります。

なお、JP1/IM には、モニター画面呼び出し定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcomonitorfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

5.6.1 形式

モニター画面呼び出し定義ファイルの形式を次に示します。

```
DESC_VERSION=0300
[コメント]
キー定義
サブキー定義
関連づけ定義
呼び出しインターフェース定義
```

「DESC_VERSION=0300」はテーブルバージョンレコードです。

コメントは、「#」で開始する改行を含まない文字列です。

そのほかの要素について、このあとで説明します。

(1) キー定義

モニター画面の呼び出し時にイベント属性中で固定的にキーとなる項目を定義します。キーとなる項目は次の三つです。

- イベント ID
- プロダクト名
- バージョン

それぞれの属性の組み合わせによって、動作やサブキーへのリンクを定義します。

(a) 形式

```
DEF_KEY PRODUCT_NAME="プロダクト名"
        EVENT_ID=イベントID
        [VERSION=バージョン|ALL]
        {SUBKEY=サブキー
        | INTERFACE=インターフェース名}
```

5. 定義ファイル

(b) 引数

PRODUCT_NAME=" プロダクト名 "

/HITACHI/JP1/AJS などの製品名を表す文字列です。拡張属性「PRODUCT_NAME」に設定する値と同一のものを指定します。

EVENT_ID= イベント ID

8けたの16進数値文字列で、IDの基本部だけを指定します。拡張部は無視されます。JP1/SES形式のイベントに設定されている拡張部を含める場合は、サブキーを使用してください。

VERSION= バージョン

ここで指定したバージョンは、JP1 イベントの拡張属性「ACTION_VERSION」と比較されます。バージョンとして使用できる文字は、半角の数字(0~9)、英字(A~Z)、「/」、「-」です。英字の大文字と小文字は区別されません。

一つのバージョンは8バイト以内で指定します。バージョンの範囲を指定する場合は、開始バージョンと終了バージョンの両方を「-」で区切って指定します。その場合、区切りとなる「-」の前後に一つ以上の空白が必要です。

ほかのキー定義で指定したバージョンと重複するバージョンは指定できません。

SUBKEY= サブキー

サブキーの名称を記述します。このパラメーターとINTERFACEパラメーターは、どちらかだけを指定できます。

INTERFACE= インターフェース名

インターフェースの名称を記述します。定義するキーに対して、モニター画面起動時のインターフェースを一つだけ指定します。このパラメーターとSUBKEYパラメーターは、どちらかだけを指定できます。

(c) 注意事項

- バージョンの比較は昇順で実行されます。開始バージョンよりも終了バージョンの方が小さい場合は、エラーは発行されませんが、そのキー定義自体が無視されます。
- 「PRODUCT_NAME」に指定する値は、JP1 イベントの拡張属性「PRODUCT_NAME」に指定する値と同じにする必要があります。

(2) サブキー定義

サブキー定義は、モニター画面の呼び出し時に固定キーからリンクされ、イベント属性をキーとして登録します。

(a) 形式

DEF_SUBKEY

NAME=サブキー名

KEYS=属性名1 [, 属性名2[, 属性名3[, 属性名4]]]

(b) 引数

NAME= サブキー名

サブキーの名称を指定します。名称は、空白や制御文字を含まない 16 バイト以内の半角英数字文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。

KEYS= 属性名 1 [, 属性名 2[, 属性名 3[, 属性名 4]]]

属性名の指定形式を次に示します。

表 5-15 属性名の指定形式

指定形式	値の形式	意味および内容
B.ARRIVEDTIME	13 けたの 10 進数文字列	到着時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からのミリ秒数)
B.DESTSERVER	文字列	送信先イベントサーバ名
B.GROUPNAME	文字列	発行元グループ名
B.IDBASE	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の基本部
B.IDEXT	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の拡張部
B.PROCESSID	10 進数文字列	発行元プロセス ID
B.SEQNO	10 進数文字列	DB 内通し番号
B.SOURCESEQNO	10 進数文字列	発行元別通し番号
B.SOURCESERVER	文字列	発行元イベントサーバ名
B.TIME	13 けたの 10 進数文字列	登録時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からのミリ秒数)
B.USERNAME	文字列	発行元ユーザー名
B.MESSAGE	文字列	メッセージ
E. 拡張属性名	文字列	拡張属性

(3) 関連づけ定義

サブキーの値とインターフェースの関連づけを定義します。

(a) 形式

DEF_IF_RELATION

SUBKEY_NAME=サブキー名

```
{ VALUE1=" 属性値1" [[ VALUE2=" 属性値2" ]... ]
| KEY_DEFAULT }
```

IF_NAME=インターフェース名

5. 定義ファイル

(b) 引数

SUBKEY_NAME= サブキー名

サブキーの名称を指定します。名称は、空白や制御文字を含まない 16 バイト以内の半角英数字文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。

VALUE_n=" 属性値 "

n は、サブキー定義の KEYS パラメーターで指定した属性の並び順に 1 から 4 までの数です。キーの値は完全に一致させる必要があります。値に正規表現などは使用できません。指定できる属性の一覧と指定形式については、サブキー定義の説明を参照してください。

KEY_DEFAULT

VALUE1, VALUE2, ... に指定した値と一致しないケースをインターフェースと関連づける際に、VALUE1, VALUE2, ... の代わりに指定します。

IF_NAME= インターフェース名

サブキー値が一致した場合に呼び出すインターフェース名称を指定します。インターフェース名称は、空白や制御文字を含まない 16 バイト以内の半角英数字文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。

(c) 注意事項

- VALUE1, VALUE2, ... のすべての属性が完全に一致しない JP1 イベントは、「KEY_DEFAULT」で指定したインターフェースとなります。

(4) 呼び出しインターフェース定義

モニター画面呼び出し時のインターフェースを定義します。

(a) 形式

DEF_MTR_CALL

NAME=インターフェース名
EXEC_ID=アプリケーション実行定義識別子
PATH=" コマンド引数 "
[PARAM= 属性名1[,属性名2...]]

(b) 引数

NAME= インターフェース名

インターフェースの名称を指定します。名称は、空白や制御文字を含まない 16 バイト以内の半角英数字文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。

EXEC_ID= アプリケーション実行定義識別子

アプリケーション実行定義識別子を指定します。識別子には、ビューアー上のアプリケーション実行定義ファイルで定義した ID を指定します。

なお、「jco_」で始まる文字列はアプリケーション実行定義識別子として予約されているため、使用できません。

PATH=" コマンド引数 "

EXEC_ID で指定した実行形式ファイルに渡すコマンド引数を指定します。

EXEC_ID で指定した実行形式ファイル名とここで指定した引数によってコマンドラインが構成されます。例えば、次のようなコマンドラインがあるとします。

```
"app.exe arg1 arg2"
```

コマンド引数には、この「arg1」「arg2」の部分を指定します。

PATH には、ビューアーの動作環境属性およびイベント属性値で置換できる予約キーワードを指定できます。置き換えキーワードを次に示します。

表 5-16 置き換えキーワード

キーワード	置換する語句
%JCO_JP1USER%	統合コンソールのログインユーザー名
%JCO_INSTALLPATH%	ビューアーのインストールフォルダ名
%IM_EVC_PARAMETER_n%	PARAM で指定したイベント属性値に置き換える (n は 1 以上の整数)
%IM_EVC_LANGUAGE%	言語環境に応じて「Japanese」または「English」に置き換える

PARAM= 属性名 1 [, 属性名 2...]

イベント属性値で置き換える場合のイベント属性を属性名で指定します。属性名には、指定した順に 1 から順序番号が付けられます。順序番号は、置き換えキーワードの「n」に当たります。

複数のイベント属性を指定する場合は、「,」で区切って指定します。例を示します。

B.EXTID,E.A0

指定できるイベント属性は、基本属性の一部と拡張属性です。指定できる属性と指定形式については、サブキーの説明を参照してください。

5.6.2 モニター画面呼び出し定義ファイルの定義例

Windows のイベントログをトラップした JP1 イベントからモニター画面を呼ぶ場合の例を示します。

注

この例では、説明のために行頭に行番号を入れて示しています。

```

1 DESC_VERSION=0300
2 #/HITACHI/JP1/NTEVENT_LOGTRAP 0600 TO
3 #動作バージョン
4 # 0600 FROM NT版 JP1/NTEVENT_LOGTRAP 0600 TO
5 DEF_KEY PRODUCT_NAME="/HITACHI/JP1/NTEVENT_LOGTRAP/NETMDM" EVENT_ID=00003A71 SUBKEY=SAMPLE
6 DEF_SUBKEY NAME=SAMPLE KEYS=E. A5
7 DEF_IF_RELATION SUBKEY_NAME=SAMPLE VALUE="8010" IF_NAME=NETM_DM
8 DEF_MTR_CALL NAME=NETM_DM EXEC_ID=HITACHI_NETM_DM PATH="netmdm_argument"
```

5. 定義ファイル

1 行目

「DESC_VERSION=0300」は、このファイルの記述形式のバージョンが「0300」であることを示します。

2 ~ 4 行目

コメント行です。動作バージョンの適用範囲を含めることをお勧めします。

5 行目

キー定義レコードで、プロダクト名が「/HITACHI/JP1/NTEVENT_LOGTRAP」、イベントIDが「00003A71」の場合に、サブキー「SAMPLE」を使用して、呼び出すモニター画面を決定することを意味します。

6 行目

サブキー定義レコードで、サブキー名を「SAMPLE」として、拡張属性「PRODUCT_NAME」と、拡張属性「A5」(Windows のイベントログの ID)を使用することを宣言します。

7 行目

関連づけ定義レコードで、サブキーに設定した「E.A5」の値が「8010」と一致した場合、インターフェース「NETM_DM」を使用してモニター画面を表示することを意味します。

8 行目

呼び出しインターフェース定義レコードです。インターフェース名称を「NETM_DM」とし、アプリケーション実行定義識別子が「HITACHI_NETM_DM」で定義されているコマンドに引数として「netmdm_argument」を渡して実行することを意味します。

5.7 統合機能メニュー定義ファイル

統合機能メニュー定義ファイルは、JP1/IM・View の [統合機能メニュー] 画面に表示するツリー構造や表示項目などを定義するためのファイルです。

なお、JP1/IM には、統合機能メニュー定義ファイルの記述内容をチェックするためのコマンド「jcofuncfcheck」が用意されています。このコマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

統合機能メニュー定義ファイルには、次のステートメントとブロックを記述できます。

表 5-17 統合機能メニュー定義ファイルに記述できるステートメントとブロック

ステートメントまたはブロック	意味
@file ステートメント	定義ファイルタイプを宣言する
機能ツリーメニュー定義ブロック	[統合機能メニュー] 画面上の一つのフォルダまたは機能を定義する

なお、[統合機能メニュー] 画面に表示される機能の順序はファイル名順になります。一つのファイル内では、定義ブロック順になります。メニューの表示順序を変更したい場合は、これらの順序を変更してください。

5.7.1 ファイル内ステートメントの生成規則

(1) @file ステートメント

(a) 構文

```
@file type="function-definition";
```

(b) 説明

この定義ファイルが統合機能メニュー定義ファイルであることを宣言します。このステートメントは必須です。

(c) 注意事項

- このステートメントは、ファイル内の先頭行に記述しなければなりません。

5.7.2 統合機能メニュー定義ファイルのブロック

(1) 機能ツリーメニュー定義ブロック

(a) 説明

[統合機能メニュー] 画面に表示するフォルダまたは機能を作成し、機能が選択されたときに実行するアプリケーションとの関連をアプリケーション実行定義識別子で定義します。

5. 定義ファイル

(b) 記述できるステートメント種別

このブロックに記述できるステートメントは、フォルダを定義する場合と機能を定義する場合で異なります。

フォルダを定義する場合

- id ステートメント
- parent_id ステートメント
- name ステートメント

機能を定義する場合

- id ステートメント
- parent_id ステートメント
- name ステートメント
- execute_id ステートメント
- icon ステートメント
- arguments ステートメント

上記以外のステートメントが記述された場合は、エラー出力され、該当するステートメントだけが無視されます。

5.7.3 機能ツリーメニュー定義ブロック内のステートメント生成規則

(1) id ステートメント

(a) 構文

```
id="メニュー識別子";
```

(b) 説明

機能ツリーメニュー定義ブロックのメニュー識別子を定義します。このステートメントは必須です。このステートメントはブロック内に1回だけ記述できます。

(c) 指定値

メニュー識別子には、32バイト以内の半角英数字を指定できます。この文字列は、統合機能メニュー定義ファイル内でユニークでなければなりません。ユニーク性を保持するために、次の命名規則に従ってください。

フォルダの場合

会社名 [製品名]

機能の場合

会社名_製品名 [機能名(または画面名)]

適切なフォルダ名称がすでに存在している場合は、フォルダを新規に追加しないで、定

義ファイル格納場所のほかの定義ファイルに記述してあるフォルダを使用してください。

(d) 注意事項

- 「"root"」は最上位のメニュー識別子として予約されているため、使用できません。
- 「"jco_"」で始まる文字列はメニュー識別子として予約されているため、使用できません。
- 同一の「id」を持つブロックが解析対象のファイル内に複数個存在した場合、次の順に優先順位が決定され、最優先のブロックが有効になります。
 1. ファイル名を昇順でソートして後の方のブロック
 2. ファイル内の位置が後の方のブロック
 それ以外のブロックは無効になります。

(e) 定義例

「(6) arguments ステートメント」の定義例を参照してください。

(2) parent_id ステートメント

(a) 構文

```
parent_id=" 親メニュー識別子 ";
```

(b) 説明

自メニュー識別子に対して、ツリー構造上の上位にあるメニュー識別子を指定します。階層は、root を含めて 3 階層まで指定できます。このステートメントは必須です。このステートメントはブロック内に 1 回だけ記述できます。

(c) 指定値

root または定義済みのメニュー識別子を指定します。

(d) 注意事項

- 複数の親メニュー識別子を指定して複数の上位フォルダを持つことはできません。

(e) 定義例

「(6) arguments ステートメント」の定義例を参照してください。

(3) name ステートメント

(a) 構文

```
name=" 表示名称 ";
```

(b) 説明

[統合機能メニュー] 画面に表示する名称を定義します。このステートメントは必須です。このステートメントはブロック内に 1 回だけ記述できます。

5. 定義ファイル

(c) 指定値

「表示名称」には、[統合機能メニュー] 画面上に表示される文字列を指定します。文字列には日本語文字を含めることができます。内容のわかりやすい簡潔な表示名称を指定してください。

(d) 注意事項

- 指定した値はメニュー上に表示されるため、名詞にすることをお勧めします。例えば、「コマンド実行機能」などの文字列にします。
- 指定する値は、定義内でユニークでなくてもかまいませんが、操作性を考えてユニークにすることをお勧めします。

(e) 定義例

「(6) arguments ステートメント」の定義例を参照してください。

(4) execute_id ステートメント

(a) 構文

```
execute_id=" アプリケーション実行定義識別子 ";
```

(b) 説明

統合機能メニューに表示される機能をダブルクリックしたときに実行するアプリケーションを指定します。このステートメントは機能を指定する場合は必須です。このステートメントは、ブロック内で1回だけ指定できます。

(c) 指定値

アプリケーション実行定義ファイルで定義したアプリケーション実行定義識別子を指定します。

(d) 注意事項

- フォルダを作成する場合は、このステートメントを指定しても無視されます。
- 指定したアプリケーション実行定義識別子が存在しない場合、メニューは表示されません。
- 「"jco_"」で始まる文字列はアプリケーション実行定義識別子として予約されているため、使用できません。

(e) 定義例

「(6) arguments ステートメント」の定義例を参照してください。

(5) icon ステートメント

(a) 構文

```
icon=" 表示アイコンファイル名 ";
```

(b) 説明

[統合機能メニュー] 画面に表示するアイコンを指定します。このステートメントは、機能を指定する場合にだけ使用できます。

(c) 指定値

GIF ファイルのファイル名称をフルパスで指定します。

(d) 注意事項

- フォルダを作成する場合は、このステートメントを指定しても無視されます。
- このステートメントが省略された場合は、共通のアイコンが使用されます。
- GIF ファイルの推奨サイズは 16 × 16 ピクセルとします。それ以外のサイズはリサイズして表示します。

(e) 定義例

次の「(6) arguments ステートメント」の定義例を参照してください。

(6) arguments ステートメント

(a) 構文

```
arguments=" コマンド引数 ";
```

(b) 説明

execute_id で指定したアプリケーションに対する引数を指定します。このステートメントは、機能を指定する場合にだけ使用できます。このステートメントは、ブロック内で 1 回だけ指定できます。

(c) 指定値

arguments は、execute_id で指定した実行形式ファイル名に付加されてコマンドラインを構成します。例えば、次のようなコマンドラインがあるとします。

```
app.exe arg1 arg2
```

引数には、この「arg1」「arg2」の部分を指定します。

arguments には、ビューアーの動作環境属性で置き換える予約キーワードや、レジストリーの値から置き換える置換文字列も使用できます。置換文字列に関する詳細は、「5.5.4 置換文字列」を参照してください。

(d) 注意事項

- フォルダを作成する場合は、このステートメントを指定しても無視されます。
- execute_id で指定した実行形式ファイルへのフルパスと、置換文字列を置換した後の arguments は、1 個の空白を付加して連結されます。このときのコマンドラインの長さが 1,024 文字を超えた場合は、実行できません。

5. 定義ファイル

(e) 定義例

機能ツリーメニューブロックの定義例を次に示します。

```
@define-block type="function-tree-def";
id="hitachi_jpl";
parent_id="root";
name="サンプル管理";
@define-block-end;
@define-block type="function-tree-def";
id="hitachi_jpl_seihin_sample";
parent_id="hitachi_jpl";
name="サンプル画面";
icon="sample.gif";
execute_id="hitachi_jpl_seihin_sample_execute";
arguments="node_map";
@define-block-end;
```

5.7.4 統合機能メニュー定義ファイルの定義例

統合機能メニュー定義ファイルの定義例を次に示します。

```
#
# All Rights Reserved, Copyright (C) 2000, Hitachi, Ltd.
#
@file type="function-definition", version="0300";
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_folder_Network";
parent_id="root";
name="ネットワーク管理";
@define-block-end;
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_JP1_Cm2";
parent_id="jco_folder_Network";
name="ネットワーク管理";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%¥image¥menu¥cm2_manager.gif";
execute_id="default_browser";
arguments="%JCO_INSTALL_PATH%¥conf¥webdata¥ja¥hitachi_jpl_cm2.html";
@define-block-end;
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_folder_JobSystemOperation";
parent_id="root";
name="ジョブシステム運用";
@define-block-end;
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_JP1_AJS2";
parent_id="jco_folder_JobSystemOperation";
name="ジョブシステム運用";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%¥image¥menu¥ajs2_manager.gif";
```

```
execute_id="jco_JP1_AJS2";  
arguments="-t "%JCO_JP1TOKEN%";  
@define-block-end;  
#-----
```


6

コマンド

この章では、JP1/IM の定義ファイルをチェックするために使用できるコマンドについて説明します。

コマンドの記述形式

コマンド一覧

コマンドの記述形式

コマンドの説明で使用する見出しについて説明します。

このマニュアルでは、次に示す見出しを使ってコマンドの使い方を説明しています。

機能

コマンドの機能について説明します。

形式

コマンドの記述形式を示します。形式の説明で使用する記号については、「はじめに」で説明しています。

実行権限

コマンドの実行権限について説明します。

格納先ディレクトリ

コマンドの格納先について説明します。

引数

コマンドの引数の意味、形式、指定できる値などについて説明します。

注意事項

コマンドを使用する場合に注意する事柄を説明します。また、条件によって制限を受けることがあれば説明します。

使用例

具体的な値を入力したコマンドの使用例を示します。

コマンド一覧

JP1/IM で使用できるコマンドを次に示します。

表 6-1 コマンド一覧

機能	コマンド名	必要な実行権限
イベント拡張属性定義ファイルをチェックする	jcoattrfcheck	Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合： Administrators 権 限（Windows の UAC 機能が有効な 場合は管理者コン ソールから実行） UNIX の場合：なし
モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックする	jcomonitorfcheck	Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合： Administrators 権 限（Windows の UAC 機能が有効な 場合は管理者コン ソールから実行） UNIX の場合：なし
アプリケーション実行定義ファイルをチェックする	jcoappexecfcheck	なし
統合機能メニュー定義ファイルをチェックする	jcofuncfcheck	なし

なお、各コマンドの詳細説明は、次の節以降にアルファベット順に記載しています。

jcoappexecfcheck

機能

アプリケーション実行定義ファイルをチェックします。

このコマンドを実行すると、指定されたディレクトリのアプリケーション実行定義ファイルの定義誤りなどがチェックされ、解析結果が標準出力に出力されます。

解析結果は次の形式で出力されます。

アプリケーション実行定義識別子, 実行パス[, 説明文]

形式

jcoappexecfcheck アプリケーション実行定義ディレクトリ名

実行権限

なし

格納先ディレクトリ

View パス ¥bin¥

引数

アプリケーション実行定義ディレクトリ名

チェックの対象となるアプリケーション実行定義ファイルがあるディレクトリを、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。ファイル名を指定することはできません。

注意事項

解析結果には、システムで定義するアプリケーション実行定義識別子（統合コンソールで使用するデフォルトの WWW ブラウザー定義である「"default_browser"」）が含まれます。

使用例

次の定義ファイルに対してコマンドを実行した場合の例を示します。

```
@file type="application-execution-definition", version="0300";
@define-block type="application-execution-def";
id="notepad";
path="C:¥winnt¥system32¥notepad.exe";
@define-block-end;
@define-block type="application-execution-def";
id="dmp";
path="[¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥NETM/DM/P¥0521/
```

```
A¥PathName¥Path00]¥bin¥DMPSTS.exe";  
@define-block-end;
```

解析結果は次のよう出力されます。

```
"dmp", "C:¥NETMDMP¥bin¥DMPSTS.exe"  
"notepad", "C:¥winnt¥system32¥notepad.exe"  
"default_browser", "C:¥Program  
Files¥Netscape¥Communicator¥Program¥netscape.exe"
```

jcoattrfcheck

機能

イベント拡張属性定義ファイルの記述内容をチェックします。

このコマンドを実行すると、指定されたディレクトリのイベント拡張属性定義ファイルの定義誤りがチェックされ、解析結果が標準出力に出力されます。定義誤りなどのエラー情報は、標準エラー出力に出力されます。

解析結果は CSV 形式で出力されます。イベント ID ごとに、次の情報を含んだ 1 行で出力されます。

プラットフォーム, イベントID, 言語種別, プロダクト名, 属性名, 表示名, タイプ

注

「, 属性名, 表示名, タイプ」の部分は、表示されるイベント属性の分だけ繰り返し出力されます。

形式

jcoattrfcheck イベント拡張属性定義ディレクトリ名

実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：なし

格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

引数

イベント拡張属性定義ディレクトリ名

チェックの対象となる拡張属性定義ファイルがあるディレクトリ名を指定します。ディレクトリ名は、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。

チェックの対象となるファイルは、拡張子が「.conf」で、ファイルタイプが

「extended-attributes-definition」でなければなりません。

注意事項

[イベント詳細] 画面に出力される JP1 イベントの属性は、このコマンドで出力される解析結果に、基本属性および拡張属性の共通情報が付加されたものになります。

jcofuncfcheck

機能

このコマンドを実行すると、指定されたディレクトリのアプリケーション実行定義ファイルおよび統合機能メニュー定義ファイルの定義誤りなどがチェックされ、解析結果が標準出力に出力されます。

解析結果は次の形式で出力されます。

```
Function tree definition
 ツリー階層 "表示文字列" [, "実行コマンドパス"]

Function toolbar definition
 row = 列
   "表示文字列" [, "実行コマンドパス"]
```

注

「Function toolbar definition」以降の部分は、統合機能メニュー定義ディレクトリとして次のディレクトリが指定された場合にだけ表示されます。

```
Viewパス¥conf¥function¥ja
または
Viewパス¥conf¥function¥en
```

形式

```
jcofuncfcheck アプリケーション実行定義ディレクトリ名
               統合機能メニュー定義ディレクトリ名
```

実行権限

なし

格納先ディレクトリ

```
View パス ¥bin¥
```

引数

アプリケーション実行定義ディレクトリ名

チェックの対象となるアプリケーション実行定義ファイルがあるディレクトリを、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。ファイル名を指定することはできません。

統合機能メニュー定義ディレクトリ名

チェックの対象となる統合機能メニュー定義ファイルがあるディレクトリを、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。ファイル名を指定することはできません。

注意事項

解析結果には、システムで定義するアプリケーション実行定義識別子（統合コンソールで使用するデフォルトの WWW ブラウザー定義である「"default_browser"」）および統合機能メニュー識別子（機能ツリーの最上位ノードを表す「"root"」）が含まれます。

使用例

次の定義ファイルに対してコマンドを実行した場合の例を示します。

アプリケーション実行定義ファイル

```
@file type="application-execution-definition", version="0300";
@define-block type="application-execution-def";
id="notepad";
path="C:\winnt\system32\notepad.exe";
@define-block-end;
@define-block type="application-execution-def";
id="dmp";
path=["%HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\HITACHI\NETM\DM\PY0521\
A\PathName\Path00%\bin\DMPSTS.exe";
@define-block-end;
```

統合機能メニュー定義ファイル

```
@file type="function-definition", version="0300";
@define-block type="function-tree-def";
id="node1";
parent_id="root";
name="ノード1";
@define-block-end;
@define-block type="function-tree-def";
id="node11";
parent_id="node1";
name="ノード11";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%\image\1206.gif";
execute_id="default_browser";
args="http://";
@define-block-end;
@define-block type="function-tree-def";
id="node2";
parent_id="root";
name="ノード2";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%\image\1206.gif";
execute_id="notepad";
@define-block-end;
@define-block type="function-tree-def";
id="node3";
parent_id="root";
name="ノード3";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%\image\1206.gif";
execute_id="dmp";
@define-block-end;
```

解析結果は次のよう出力されます。

```
Function tree definition
"統合管理"
  "ノード1"
    "ノード11", "C:¥Program
Files¥Netscape¥Communicator¥Program¥netscape.exe"
    "ノード2", "C:¥winnt¥system32¥notepad.exe"
    "ノード3", "C:¥NETMDMP¥bin¥DMPSTS.exe"
Function toolbar definition
  row=1
    "ノード11", "C:¥Program
Files¥Netscape¥Communicator¥Program¥netscape.exe"
    "ノード2", "C:¥winnt¥system32¥notepad.exe"
```

jcomonitorfcheck

機能

モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックします。

このコマンドを実行すると、指定されたモニター画面呼び出し定義ファイルの定義誤りなどがチェックされ、解析結果が標準出力に出力されます。定義誤りなどのエラー情報は標準エラー出力に出力されます。

解析結果は、イベント ID 単位に次の形式で出力されます。

```

プロダクト名, イベントID
  開始バージョン, 終了バージョン
    [サブキー名, キーとなる属性名
      [キーとなる属性値, インターフェース名]]
      [インターフェース名, アプリケーション実行定義識別子,
        コマンド引数, 置き換えイベント属性]
  
```

バージョンの指定が「0600」のように一つだけだった場合は、開始バージョンと終了バージョンに同じ値が出力されます。同様に、「ALL」を指定した場合も、開始バージョンと終了バージョンの両方に「ALL」が表示されます。

キー定義「DEF_KEY」に「SUBKEY」が設定された場合は、サブキーの内容が表示されます。「SUBKEY」は、ほかのキー定義「DEF_KEY」で使用されている場合でも重複して表示されます。

形式

jcomonitorfcheck モニター画面呼び出し定義ディレクトリ名

実行権限

Windows Server 2003 の場合：なし

Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限（Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行）

UNIX の場合：なし

格納先ディレクトリ

Windows の場合

Consoleパス¥bin¥

UNIX の場合

/opt/jplcons/bin/

引数

モニター画面呼び出し定義ディレクトリ名

チェックの対象となるモニター画面呼び出し定義ディレクトリ名を、絶対パス名、またはカレントディレクトリからの相対パス名で指定します。

注意事項

このコマンドでは、アプリケーション実行定義識別子がアプリケーション実行定義ファイルに定義されているかどうかはチェックしません。

使用例

次の定義ファイルに対してコマンドを実行した場合の例を示します。

```
DESC_VERSION=0300

#AJS2-View用モニター画面遷移定義ファイル

DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004102
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004103
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004104
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004105
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004106
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004107
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004108
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004109
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004120
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004121
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004122
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004123
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004124
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=00004125
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=000041A7
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=000041A8
INTERFACE=AJS2_MONITOR
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/AJS2 EVENT_ID=000041A9
INTERFACE=AJS2_MONITOR

DEF_MTR_CALL NAME=AJS2_MONITOR EXEC_ID=jco_JP1_AJS2 PATH="-j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
```

```
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%"
PARAM=B.SOURCESERVER,E.A0,E.A1,E.A3
```

解析結果は次のようになります。

```
/HITACHI/JP1/AJS2, 41a9
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4109
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 41a8
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4108
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 41a7
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4107
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4106
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4125
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4105
  ALL, ALL
  AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
```

```

/HITACHI/JP1/AJS2, 4124
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4104
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4123
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4103
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4122
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4102
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4121
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3
/HITACHI/JP1/AJS2, 4120
ALL, ALL
    AJS2_MONITOR, jco_JP1_AJS2, -j
%IM_EVC_PARAMETER_1%::%IM_EVC_PARAMETER_2%/IM_EVC_PARAMETER_3% -t
%JCO_JP1TOKEN% -v monitor -l %IM_EVC_PARAMETER_4%, B.SOURCESERVER,
E.A0, E.A1, E.A3

```

付録

付録 A JP1 イベントの属性の設定基準

付録 B 定義ファイルのステートメントの詳細

付録 C (3020-3-K03-81) の変更内容

付録 A JP1 イベントの属性の設定基準

JP1 イベントの属性の設定基準を示します。モニター画面呼び出しの定義をする際は、ここに示す基準に基づいてイベント属性を設定してください。

付録 A.1 基本属性

JP1 イベントの基本属性を次に示します。

表 A-1 基本属性

属性の項目	説明
イベント DB 内の通し番号	発行元によらないでこのイベントサーバに到達した順番（ローカルイベントも含む）。この属性は JP1 イベントのイベントサーバ間の転送時に保存されない。主に JP1 イベントをユーザーアプリケーションが取得したときやほかのイベントサーバへ転送したときの漏れ・重複の防止に用いる。
イベント ID	発行元のアプリケーションや事象の内容を表す 8 バイトの値。各日立プログラムおよびユーザープログラムには、イベントの ID の範囲が割り当てられている。ユーザープログラムに指定できる値の範囲は、0 ~ 0x1FFF および 0x7FFF8000 ~ 0x7FFFFFFF である。イベント ID は、システム全体でユニーク性を保持できるように割り当てて必要がある。なお、メッセージ ID の 8 バイトのうち上位 4 バイトが基本部、下位 4 バイトが拡張部となっている。
登録要因	JP1 イベントがこのイベントサーバに登録された要因。この属性は JP1 イベントのイベントサーバ間転送時に保存されない。登録要因を次に示す。 1：自イベントサーバから自イベントサーバあての発行 2：自イベントサーバから他イベントサーバあての発行 3：他イベントサーバから自イベントサーバあての発行 4：環境設定の指定による他イベントサーバから自イベントサーバへの転送
プロセス ID	発行元アプリケーションプログラムのプロセス ID。
登録時刻	発行元イベントサーバでの登録時刻（発行元ホストの時計に基づく。UTC の 1970-01-01 00:00:00 からの秒数）。
到着時刻	自イベントサーバでの登録時刻（UTC の 1970-01-01 00:00:00 からの秒数）。この属性は JP1 イベントのイベントサーバ間転送時に保存されない。
発行元ユーザー ID	発行元プロセスのユーザー ID。Windows と Java では環境設定による固定値（-1 ~ 65,535）。
発行元グループ ID	発行元プロセスのグループ ID。Windows と Java では環境設定による固定値（-1 ~ 65,535）。
発行元ユーザー名	発行元プロセスのユーザー名。
発行元グループ名	発行元プロセスのグループ名。Windows と Java では NULL 文字列。
発行元イベントサーバ名	発行元のイベントサーバ名。JP1 イベントが転送された場合でもこの JP1 イベントが発生したホストのイベントサーバ名が入る。
送信先イベントサーバ名	発行元アプリケーションが他イベントサーバへの転送を明示して指定した場合に、他イベントサーバの名称が入る。

属性の項目	説明
発行元 IP アドレス	発行元イベントサーバに対応する IP アドレス (NAT やプロキシを経由した場合および環境設定で転送した JP1 イベントについては正確な値ではない)。
送信先 IP アドレス	送信先イベントサーバに対応する IP アドレス (NAT やプロキシを経由した場合および環境設定で転送した JP1 イベントについては正確な値ではない)。
発行元別通し番号	発行元ホストでのイベント DB 内通し番号 (転送によって値は変化しない)。
コードセット	メッセージ・詳細情報・拡張属性が記述されている文字コードセット名。
メッセージ	メッセージは次の規則に基づいて指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • 事象の内容をわかりやすく説明する。 • 改行コードを含めないで 1 行で書く。
詳細情報	任意のデータ。

付録 A.2 拡張属性

JP1 イベントの拡張属性を次に示します。拡張属性には、共通情報と固有情報があります。

(1) 共通情報

拡張属性の共通情報を次に示します。なお、拡張属性の共通情報はイベント拡張属性定義ファイルに定義する必要はありません。

表 A-2 拡張属性 (共通情報)

属性名	項目	内容
SEVERITY	重大度	次に示す重大度がある。 Emergency, Alert, Critical, Error, Warning, Notice, Information, Debug 重大度の詳細については、「表 A-3 重大度の意味」を参照のこと。
USER_NAME	ユーザー名	ユーザー名。業務を実行しているユーザーの名前。
PRODUCT_NAME	プロダクト名	プロダクト名。プロダクト名は、スラント「/」で区切られた半角英数字列となる。次のどちらかの形式に従い、会社ごとにユニークな文字列となるようにする。 /会社名/シリーズ名/プロダクト名 または /会社名/プロダクト名 なお、会社名「HITACHI」は予約されているため、使用できない。

属性名	項目	内容
OBJECT_TYPE	オブジェクトタイプ	<p>オブジェクトタイプには、イベント発行元のオブジェクトの種類を指定する。デフォルトでは、次のオブジェクトタイプが登録されている。このタイプを使用して JP1 イベントのフィルタリングおよび検索を実行するため、同じ意味を持つ JP1 イベントは、できるだけ同じオブジェクトタイプとして扱えるように指定する。</p> <p>新しいオブジェクトタイプを追加する場合は、ユニークな名称を指定する。オブジェクトタイプを追加した場合は、オブジェクトタイプ定義ファイルを作成する必要がある。</p> <p>JOB：ジョブ JOBNET：ジョブネット ACTION：アクション ACTIONFLOW：アクションフロー PRINTJOB：印刷ジョブ PRINTQUEUE：プリントキュー PRINTER：プリンタ BATCHQUEUE：バッチキュー PIPEQUEUE：パイプキュー JOBBOX：ジョブボックス LOGFILE：ログファイル LINK：リンク（下位層の通信レイヤーの事象通知用） SERVICE：サービス（デーモンプロセスなど） PRODUCT：プロダクト（プログラム固有のそのほかの事象通知用） CONFIGURATION：構成定義 SERVER：サーバ BACKUP：バックアップ RESTORE：リストア MEDIA：メディア</p>
OBJECT_NAME	オブジェクト名	<p>オブジェクト名。オブジェクトタイプを特定するための名称を指定する。例えば、オブジェクトタイプが「JOB」の場合はジョブ名称などを指定する。</p>
ROOT_OBJECT_TYPE	登録名タイプ	<p>登録名タイプ。オブジェクトタイプの親オブジェクトのタイプを指定する。これは、オブジェクトが階層を持つ場合などに有効である。例えば、オブジェクトタイプが「JOB」の場合、ルートオブジェクトタイプは「JOBNET」となる。</p> <p>ルートオブジェクトタイプが存在しない場合は、オブジェクトタイプと同じ種別を指定すること。デフォルトでは、オブジェクトタイプと同じ値が定義されている。</p>
ROOT_OBJECT_NAME	登録名	<p>登録名。上記のルートオブジェクトタイプを特定するための名称を指定する。例えば、ジョブネット名称などを指定する。</p>
OBJECT_ID	オブジェクト ID	<p>オブジェクト ID。</p> <p>PRODUCT_NAME との組み合わせによってオブジェクトのインスタンスを統合システム内で一意に意識できる文字列（形式は他製品に依存する。この情報は JP1/IM の [統合機能メニュー] 画面から各製品のモニターを呼び出すときに使用する）</p>

属性名	項目	内容
OCCURRENCE	事象種別	<p>特定のオブジェクトについて、イベントの発行契機となる事象を設定する。デフォルトでは次のものがある。基本的には、オブジェクトタイプとこの事象種別によってフィルター設定などを行うことで、特定のオブジェクトの特定の事象を選択できるようになる。</p> <p>ACTIVE：アクティブになった INACTIVE：非アクティブになった START：開始した END：終了した NOTSTART：開始できなかった CANCEL：キャンセルされた LATESTART：開始予定時刻を過ぎた LATEEND：終了予定時刻を過ぎた SUBMIT：サブMITされた UNSUBMIT：サブMITが取り消された ENQUEUE：キューに登録された DEQUEUE：キューから削除された PAUSE：一時停止（保留） RELEASE：一時停止の解除（保留解除） RESTART：再実行を開始した CREATE：作成された DELETE：削除された MODIFY：更新された RETRY：リトライを開始した STOP：停止中 MOVE：移動した COPY：コピーした NOTICE：通知した（オペレーターなどへの通知結果） REPLY：応答された CONNECT：接続した DISCONNECT：切り離れた EXCEPTION：その他のエラーが発生した</p>
START_TIME	開始時刻	実行開始または再実行開始の時刻。UTC 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数で指定する。事象種別が START, RESTART, PAUSE, RELEASE, または END の場合だけに指定する。
END_TIME	終了時刻	実行終了の時刻。UTC 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数で指定する。事象種別が END の場合だけに指定する。
RESULT_CODE	終了コード	10 進数文字列の終了コード。事象種別が END の場合だけに指定する。
PLATFORM	-	イベント拡張属性定義ファイル、モニター画面呼び出し定義ファイルなどでプラットフォーム種別として指定する任意の文字列を指定する。省略した場合は、「base」が指定されたものとして扱われる。
ACTION_VERSION	-	モニター画面呼び出しのときのバージョン情報として使用する。複数バージョンが混在していて、それぞれの場合に呼び出す画面などが異なる場合に必要である。指定しない場合は、モニター画面呼び出し定義でバージョン指定を使用しないこと。

注

これらの属性はイベント詳細情報には表示されません。ただし、イベント拡張属性定義ファイルに定義した場合はイベント詳細情報に表示されます。

「重大度」の意味

拡張属性の共通情報「重大度」の意味を次の表に示します。モニター画面呼び出しの定義をするときには、ここに示す基準を指針としてください。なお、発行時に「重大度」が指定されていないイベントは、[イベントコンソール] 画面に表示されません。

表 A-3 重大度の意味

重大度	表示名称	意味
Emergency	緊急	パニック状態。通常すべてのユーザーにブロードキャストするもの
Alert	警戒	システムやデータベースの破壊など、直ちに修復が必要な状態
Critical	致命的	ハードデバイスのエラーなどの危険な状態
Error	エラー	エラー
Warning	警告	警告メッセージ
Notice	通知	エラー状態ではないが、特別な扱いが必要な状態
Information	情報	通知メッセージ
Debug	デバッグ	通常、プログラムのデバッグ時だけに使用する情報を含むメッセージ。メッセージ量の問題が発生するので、JP1 イベント発行の対象としない

(2) 固有情報

共通情報のほかに、JP1 イベントに付加して利用価値のある情報をプログラムごとに固有情報として設定します。拡張属性の固有情報を設定した場合は、イベント拡張属性定義ファイルに定義する必要があります。

固有情報を設定するときの規則を次に示します。

- 属性名は意味のない記号名でもよい。
- 属性名と意味は、同じ「PRODUCT_NAME」の拡張属性を持つ各プログラムで1対1で対応するようにする。

付録 B 定義ファイルのステートメントの詳細

JP1/IM の定義ファイルに記述できるステートメントの種類、構造、および指定できる値を一覧で示します。

注

この節の説明は次の三つの定義ファイルだけに該当します。

- イベント拡張属性定義ファイル
- アプリケーション実行定義ファイル
- 統合機能メニュー定義ファイル

付録 B.1 ステートメントの種類

表 B-1 ステートメントの種類

ステートメントの分類	ステートメントの種類
ファイル内ステートメント	ブロック開始ステートメント ブロック終了ステートメント ファイル属性ステートメント プロダクトステートメント
ブロック内ステートメント	機能メニューコマンドオプション定義ステートメント イベント属性定義ステートメント ブロック属性定義ステートメント 機能メニュー実行定義識別子定義ステートメント アプリケーション説明定義ステートメント グループ定義ステートメント 機能メニュー表示アイコン定義ステートメント アプリケーション実行定義識別子定義ステートメント 機能メニュー識別子定義ステートメント 機能メニュー表示名定義ステートメント 順序定義ステートメント 機能メニュー親識別子定義ステートメント アプリケーションパス定義ステートメント

付録 B.2 ステートメントの構造

表 B-2 ステートメントの構造

ステートメントの種類	記述形式
ブロック開始ステートメント	@define-block type= ブロック種別
ブロック終了ステートメント	@define-block-end
ファイル属性ステートメント	@file type= 定義ファイルタイプ [, version= 定義フォーマットバージョン]
プロダクトステートメント	@product name= プロダクト名
機能メニューコマンドオプション定義ステートメント	arguments= コマンド引数

ステートメントの種類	記述形式
イベント属性定義ステートメント	attr name= 属性名, title= 表示項目名 [, type= 属性表示タイプ]
ブロック属性定義ステートメント	block lang= 言語種別 platform= プラットフォーム種別 version= 適用バージョン
機能メニュー実行定義識別子定義ステートメント	execute_id= アプリケーション実行定義識別子
アプリケーション説明定義ステートメント	description= アプリケーション実行の説明文
グループ定義ステートメント	group name= グループ名, attrs= 属性名並び
機能メニュー表示アイコン定義ステートメント	icon= 表示アイコンファイル名
アプリケーション実行定義識別子定義ステートメント	id= アプリケーション実行定義識別子
機能メニュー識別子定義ステートメント	id= 機能メニュー識別子
機能メニュー表示名定義ステートメント	name= 表示名称
順序定義ステートメント	order id= イベント ID 定義文字列, attrs= 属性名並び
機能メニュー親識別子定義ステートメント	parent_id= 親機能メニュー識別子
アプリケーションパス定義ステートメント	path= コマンドパス

付録 B.3 ステートメント内の構成要素の生成規則

ステートメント内の構成要素に指定できる値を次に示します。

表 B-3 ステートメント内の構成要素に指定できる値

構成要素	指定できる値
16 進数値文字	0 ~ 9 および A ~ F
EUCJIS	EUCJIS
JIS	JIS
Shift-JIS	SJIS
アプリケーション実行の説明文	1 ~ 50 バイトのユーザー定義文字列
アプリケーション実行定義	application-execution-definition
アプリケーション実行定義ブロック	application-execution-def
アプリケーション実行定義識別子	1 ~ 32 バイトの半角英数字
イベント ID	1 ~ 8 バイトの 16 進数値文字

構成要素	指定できる値
イベント ID 定義文字列	イベント ID イベント ID 定義文字列 列挙セパレーター イベント ID
イベントオブジェクトタイプ定義ブロック	event-object-def
イベント拡張属性定義	extended-attributes-definition
イベント属性グループ定義ブロック	event-attr-group-def
イベント属性定義ブロック	event-attr-def
イベント表示順序定義ブロック	event-attr-order-def
インターフェース名	1 ~ 32 バイトの半角英数字
グループ名	1 ~ 32 バイトの半角英数字
コマンドパス	ファイル名
コマンド引数	コマンド引数として意味のあるユーザー定義文字列
サブキー名	1 ~ 32 バイトの半角英数字
スラント	/
スラント区切り英数字列	スラント 英数字 スラント区切り英数字列 スラント スラント区切り英数字列 英数字
デフォルト	default
バージョン	1 ~ 7 バイトの半角英数字のバージョン文字列
バージョン記号文字	/ . -
バージョン範囲指定	バージョン 空白・空白 バージョン
バージョン文字	英大文字 数字 バージョン記号文字
ファイル記号文字	./ /¥¥ - _ ~
ファイル名	ファイルパスとして意味のある文字列
ファイル名文字列	ファイル記号文字 英数字 ファイル名文字列 ファイル記号文字 ファイル名文字列 英数字
プラットフォーム種別	base 半角英数字列
プロダクト名	スラント区切り半角英数字列
ブロック種別	イベント属性定義ブロック イベント属性グループ定義ブロック イベント表示順序定義ブロック アプリケーション実行定義ブロック
ユーザー定義文字	半角英数字 日本語文字 記号
英語	English
英字	小文字および大文字の半角英字
英小文字	a ~ z
英数字	半角の英字および数字
英大文字	A ~ Z

構成要素	指定できる値
機能ツリーノード定義ブロック	function+tree+def
統合ツリーメニュー定義	function+definition
機能メニュー識別子	1 ~ 32 バイトの半角英数字
機能メニュー識別子列	[0 ~ 9 バイトの機能メニュー識別子 列挙セパレーター] 機能メニュー識別子
言語種別	日本語 英語
親機能メニュー識別子	機能メニュー識別子
数字	0 ~ 9
説明	1 ~ 50 バイトのユーザー定義文字
属性値	1 ~ 10,000 バイトの文字
属性値タイプ	elapsed_time
属性表示タイプ	属性値タイプ / 表示フォーマット
属性名	(B E). 属性名文字列
属性名文字	半角英大文字 半角数字 _
属性名文字列	0 ~ 31 バイトの半角英大文字の属性名文字
属性名並び	属性名 属性名並び ¥ 属性名
定義ファイルタイプ	イベント拡張属性定義 アプリケーション実行定義 モニター画面呼び出し定義 統合機能メニュー定義
定義フォーマットバージョン	0300
適用バージョン	ALL バージョン バージョン範囲指定
日時表示フォーマット	date_format: 表示タイムゾーン
日本語	Japanese
日本語文字	半角仮名を除く 2 バイト文字
日本語文字コード	Shift-JIS EUCJIS JIS
表示アイコンファイル名	ファイル名
表示タイムゾーン	CLIENT
表示フォーマット	日時表示フォーマット
表示項目文字	英数字 空白 · _ 日本語文字
表示項目文字列	0 ~ 64 バイトの表示項目文字列
表示項目名	表示項目文字列
表示名称	1 ~ 32 バイトのユーザー定義文字列
列挙セパレーター	¥

付録 C (3020-3-K03-81) の変更内容

3020-3-K03-81 の変更内容を表 C-1 に示します。

表 C-1 (3020-3-K03-81) の変更内容

#	変更箇所	追加・変更内容
1	前書き	<p>対象製品</p> <p>[訂正前]</p> <p>適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP Professional P-242C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-50</p> <p>適用 OS : Windows Vista P-2A2C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-50</p> <p>適用 OS : Windows Server 2003 P-242C-8E84 JP1/Integrated Management - Manager 08-50</p> <p>P-242C-6L84 JP1/Base 08-50</p> <p>[訂正後]</p> <p>適用 OS : Windows Server 2003 , Windows XP Professional P-242C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-50</p> <p>適用 OS : Windows Vista , Windows Server 2008 P-2A2C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-50</p> <p>適用 OS : Windows Server 2003 P-242C-8E84 JP1/Integrated Management - Manager 08-50</p> <p>P-242C-6L84 JP1/Base 08-50</p> <p>適用 OS : Windows Server 2008 P-2A2C-8E84 JP1/Integrated Management - Manager 08-50</p> <p>P-2A2C-6L84 JP1/Base 08-50</p>

#	変更箇所	追加・変更内容
2	前書き	<p>対象製品</p> <p>[訂正前] 適用 OS : AIX P-1M2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50 P-1M2C-6L81 JP1/Base 08-50</p> <p>[訂正後] 適用 OS : AIX 5L 5.2 , 5L 5.3 P-1M2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50 P-1M2C-6L81 JP1/Base 08-50 適用 OS : AIX 6.1 P-1M2C-9E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50 P-1M2C-6L81 JP1/Base 08-50</p>
3	前書き	<p>対象製品</p> <p>[訂正前] 適用 OS : Linux AS 4 (x86) , Linux ES 4 (x86) , Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T) , Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T) P-9S2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50 P-9S2C-7L81 JP1/Base 08-50 適用 OS : Linux AS 4 (IPF) P-9V2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50 P-9V2C-6L81 JP1/Base 08-50</p>

#	変更箇所	追加・変更内容														
		<p>[訂正後]</p> <p>適用 OS : Linux AS 4 (x86), Linux ES 4 (x86), Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T), Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)</p> <p>P-9S2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50</p> <p>P-9S2C-7L81 JP1/Base 08-50</p> <p>適用 OS : Linux 5 (x86), Linux 5 AP (x86), Linux 5 (AMD64 & Intel EM64T), Linux 5 AP (AMD64 & Intel EM64T)</p> <p>P-9S2C-9E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50</p> <p>P-9S2C-7L81 JP1/Base 08-50</p> <p>適用 OS : Linux AS 4 (IPF)</p> <p>P-9V2C-8E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50</p> <p>P-9V2C-6L81 JP1/Base 08-50</p> <p>適用 OS : Linux 5 (IPF), Linux 5 AP (IPF)</p> <p>P-9V2C-9E81 JP1/Integrated Management - Manager 08-50</p> <p>P-9V2C-6L81 JP1/Base 08-50</p>														
4	前書き	<p>対象製品</p> <p>[追加]</p> <p>注 Windows Server 2008 は、P-2A2C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-50-05 以降でサポートしています。</p>														
5	はじめに	<p>このマニュアルでの表記</p> <p>[訂正前]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>このマニュアルでの表記</th> <th>正式名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AIX</td> <td>AIX 5L 5.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>AIX 5L 5.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>[訂正後]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>このマニュアルでの表記</th> <th>正式名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AIX</td> <td>AIX 5L 5.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>AIX 5L 5.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>AIX 6.1</td> </tr> </tbody> </table>	このマニュアルでの表記	正式名称	AIX	AIX 5L 5.2		AIX 5L 5.3	このマニュアルでの表記	正式名称	AIX	AIX 5L 5.2		AIX 5L 5.3		AIX 6.1
このマニュアルでの表記	正式名称															
AIX	AIX 5L 5.2															
	AIX 5L 5.3															
このマニュアルでの表記	正式名称															
AIX	AIX 5L 5.2															
	AIX 5L 5.3															
	AIX 6.1															

#	変更箇所	追加・変更内容																																		
6	はじめに	<p>このマニュアルでの表記 [訂正前]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>このマニュアルでの表記</th> <th>正式名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Linux</td> <td>Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux AS 4 (IPF) または Linux (IPF)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux AS 4 (x86)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux ES 4 (x86)</td> </tr> </tbody> </table> <p>[訂正後]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>このマニュアルでの表記</th> <th>正式名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Linux</td> <td>Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux AS 4 (IPF) または Linux (IPF)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux AS 4 (x86)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux ES 4 (x86)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux AP 5 (AMD64 & Intel EM64T)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux AP 5 (IPF)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux AP 5 (x86)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux 5 (AMD64 & Intel EM64T)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Linux 5 (x86)</td> </tr> </tbody> </table>	このマニュアルでの表記	正式名称	Linux	Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)		Linux AS 4 (IPF) または Linux (IPF)		Linux AS 4 (x86)		Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)		Linux ES 4 (x86)	このマニュアルでの表記	正式名称	Linux	Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)		Linux AS 4 (IPF) または Linux (IPF)		Linux AS 4 (x86)		Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)		Linux ES 4 (x86)		Linux AP 5 (AMD64 & Intel EM64T)		Linux AP 5 (IPF)		Linux AP 5 (x86)		Linux 5 (AMD64 & Intel EM64T)		Linux 5 (x86)
このマニュアルでの表記	正式名称																																			
Linux	Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)																																			
	Linux AS 4 (IPF) または Linux (IPF)																																			
	Linux AS 4 (x86)																																			
	Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)																																			
	Linux ES 4 (x86)																																			
このマニュアルでの表記	正式名称																																			
Linux	Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)																																			
	Linux AS 4 (IPF) または Linux (IPF)																																			
	Linux AS 4 (x86)																																			
	Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)																																			
	Linux ES 4 (x86)																																			
	Linux AP 5 (AMD64 & Intel EM64T)																																			
	Linux AP 5 (IPF)																																			
	Linux AP 5 (x86)																																			
	Linux 5 (AMD64 & Intel EM64T)																																			
	Linux 5 (x86)																																			
7	はじめに	<p>このマニュアルでの表記 [追加]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>このマニュアルでの表記</th> <th>正式名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Windows Server 2008</td> <td>Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard</td> </tr> </tbody> </table>	このマニュアルでの表記	正式名称	Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard																														
このマニュアルでの表記	正式名称																																			
Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard																																			
8	はじめに	<p>このマニュアルでの表記 [訂正前]</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2000, Windows XP Professional, Windows Server 2003, Windows Vista を総称して Windows と表記することがあります。 <p>[訂正後]</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2000, Windows XP Professional, Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Vista を総称して Windows と表記することがあります。 																																		
9	はじめに	<p>Windows 版 JP1/IM, JP1/Base のインストール先フォルダの表記 [訂正前]</p> <p>Windows Vista の場合、「システムドライブ:¥ProgramData」と表記している部分は、インストール時の OS 環境変数によって決定されるため、環境によって異なる場合があります。</p>																																		

#	変更箇所	追加・変更内容																																																																																				
		<p>[訂正後]</p> <p>Windows Vista , Windows Server 2008 の場合 , 「システムドライブ : ¥ProgramData」と表記している部分は , インストール時の OS 環境変数によって決定されるため , 環境によって異なる場合があります。</p>																																																																																				
10	5.6.1	<p>(2) サブキー定義 (b) 引数 表 5-15 属性名の指定形式</p> <p>[訂正前]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指定形式</th> <th>値の形式</th> <th>意味および内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B. ARRIVEDTIME</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>到着時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数)</td> </tr> <tr> <td>B. DESTSERVER</td> <td>文字列</td> <td>送信先イベントサーバ名</td> </tr> <tr> <td>B. GROUPNAME</td> <td>文字列</td> <td>発行元グループ名</td> </tr> <tr> <td>B. IDBASE</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>イベント ID の基本部</td> </tr> <tr> <td>B. IDEXT</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>イベント ID の拡張部</td> </tr> <tr> <td>B. PROCESSID</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>発行元プロセス ID</td> </tr> <tr> <td>B. SEQNO</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>DB 内通し番号</td> </tr> <tr> <td>B. SOURCESEQNO</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>発行元別通し番号</td> </tr> <tr> <td>B. SOURCESERVER</td> <td>文字列</td> <td>発行元イベントサーバ名</td> </tr> <tr> <td>B. TIME</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>登録時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数)</td> </tr> <tr> <td>B. USERNAME</td> <td>文字列</td> <td>発行元ユーザー名</td> </tr> <tr> <td>B. MESSAGE</td> <td>文字列</td> <td>メッセージ</td> </tr> <tr> <td>E. 拡張属性名</td> <td>文字列</td> <td>拡張属性</td> </tr> </tbody> </table> <p>[訂正後]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指定形式</th> <th>値の形式</th> <th>意味および内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B. ARRIVEDTIME</td> <td>13 けたの 10 進数文字列</td> <td>到着時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からのミリ秒数)</td> </tr> <tr> <td>B. DESTSERVER</td> <td>文字列</td> <td>送信先イベントサーバ名</td> </tr> <tr> <td>B. GROUPNAME</td> <td>文字列</td> <td>発行元グループ名</td> </tr> <tr> <td>B. IDBASE</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>イベント ID の基本部</td> </tr> <tr> <td>B. IDEXT</td> <td>8 けたの 16 進数文字列</td> <td>イベント ID の拡張部</td> </tr> <tr> <td>B. PROCESSID</td> <td>10 進数文字列</td> <td>発行元プロセス ID</td> </tr> <tr> <td>B. SEQNO</td> <td>10 進数文字列</td> <td>DB 内通し番号</td> </tr> <tr> <td>B. SOURCESEQNO</td> <td>10 進数文字列</td> <td>発行元別通し番号</td> </tr> <tr> <td>B. SOURCESERVER</td> <td>文字列</td> <td>発行元イベントサーバ名</td> </tr> <tr> <td>B. TIME</td> <td>13 けたの 10 進数文字列</td> <td>登録時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からのミリ秒数)</td> </tr> <tr> <td>B. USERNAME</td> <td>文字列</td> <td>発行元ユーザー名</td> </tr> <tr> <td>B. MESSAGE</td> <td>文字列</td> <td>メッセージ</td> </tr> <tr> <td>E. 拡張属性名</td> <td>文字列</td> <td>拡張属性</td> </tr> </tbody> </table>	指定形式	値の形式	意味および内容	B. ARRIVEDTIME	8 けたの 16 進数文字列	到着時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数)	B. DESTSERVER	文字列	送信先イベントサーバ名	B. GROUPNAME	文字列	発行元グループ名	B. IDBASE	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の基本部	B. IDEXT	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の拡張部	B. PROCESSID	8 けたの 16 進数文字列	発行元プロセス ID	B. SEQNO	8 けたの 16 進数文字列	DB 内通し番号	B. SOURCESEQNO	8 けたの 16 進数文字列	発行元別通し番号	B. SOURCESERVER	文字列	発行元イベントサーバ名	B. TIME	8 けたの 16 進数文字列	登録時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数)	B. USERNAME	文字列	発行元ユーザー名	B. MESSAGE	文字列	メッセージ	E. 拡張属性名	文字列	拡張属性	指定形式	値の形式	意味および内容	B. ARRIVEDTIME	13 けたの 10 進数文字列	到着時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からのミリ秒数)	B. DESTSERVER	文字列	送信先イベントサーバ名	B. GROUPNAME	文字列	発行元グループ名	B. IDBASE	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の基本部	B. IDEXT	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の拡張部	B. PROCESSID	10 進数文字列	発行元プロセス ID	B. SEQNO	10 進数文字列	DB 内通し番号	B. SOURCESEQNO	10 進数文字列	発行元別通し番号	B. SOURCESERVER	文字列	発行元イベントサーバ名	B. TIME	13 けたの 10 進数文字列	登録時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からのミリ秒数)	B. USERNAME	文字列	発行元ユーザー名	B. MESSAGE	文字列	メッセージ	E. 拡張属性名	文字列	拡張属性
指定形式	値の形式	意味および内容																																																																																				
B. ARRIVEDTIME	8 けたの 16 進数文字列	到着時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数)																																																																																				
B. DESTSERVER	文字列	送信先イベントサーバ名																																																																																				
B. GROUPNAME	文字列	発行元グループ名																																																																																				
B. IDBASE	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の基本部																																																																																				
B. IDEXT	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の拡張部																																																																																				
B. PROCESSID	8 けたの 16 進数文字列	発行元プロセス ID																																																																																				
B. SEQNO	8 けたの 16 進数文字列	DB 内通し番号																																																																																				
B. SOURCESEQNO	8 けたの 16 進数文字列	発行元別通し番号																																																																																				
B. SOURCESERVER	文字列	発行元イベントサーバ名																																																																																				
B. TIME	8 けたの 16 進数文字列	登録時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数)																																																																																				
B. USERNAME	文字列	発行元ユーザー名																																																																																				
B. MESSAGE	文字列	メッセージ																																																																																				
E. 拡張属性名	文字列	拡張属性																																																																																				
指定形式	値の形式	意味および内容																																																																																				
B. ARRIVEDTIME	13 けたの 10 進数文字列	到着時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からのミリ秒数)																																																																																				
B. DESTSERVER	文字列	送信先イベントサーバ名																																																																																				
B. GROUPNAME	文字列	発行元グループ名																																																																																				
B. IDBASE	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の基本部																																																																																				
B. IDEXT	8 けたの 16 進数文字列	イベント ID の拡張部																																																																																				
B. PROCESSID	10 進数文字列	発行元プロセス ID																																																																																				
B. SEQNO	10 進数文字列	DB 内通し番号																																																																																				
B. SOURCESEQNO	10 進数文字列	発行元別通し番号																																																																																				
B. SOURCESERVER	文字列	発行元イベントサーバ名																																																																																				
B. TIME	13 けたの 10 進数文字列	登録時刻 (UTC1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からのミリ秒数)																																																																																				
B. USERNAME	文字列	発行元ユーザー名																																																																																				
B. MESSAGE	文字列	メッセージ																																																																																				
E. 拡張属性名	文字列	拡張属性																																																																																				

#	変更箇所	追加・変更内容																														
11	6	<p>コマンド一覧 表 6-1 コマンド一覧 [訂正前]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>コマンド名</th> <th>必要な実行権限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イベント拡張属性定義ファイルをチェックする</td> <td>jcoattrfcheck</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックする</td> <td>jcomonitorfcheck</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>アプリケーション実行定義ファイルをチェックする</td> <td>jcoappexecfcheck</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>統合機能メニュー定義ファイルをチェックする</td> <td>jcofuncfcheck</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>[訂正後]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>コマンド名</th> <th>必要な実行権限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イベント拡張属性定義ファイルをチェックする</td> <td>jcoattrfcheck</td> <td>Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) UNIX の場合：なし</td> </tr> <tr> <td>モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックする</td> <td>jcomonitorfcheck</td> <td>Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) UNIX の場合：なし</td> </tr> <tr> <td>アプリケーション実行定義ファイルをチェックする</td> <td>jcoappexecfcheck</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>統合機能メニュー定義ファイルをチェックする</td> <td>jcofuncfcheck</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>	機能	コマンド名	必要な実行権限	イベント拡張属性定義ファイルをチェックする	jcoattrfcheck	なし	モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックする	jcomonitorfcheck	なし	アプリケーション実行定義ファイルをチェックする	jcoappexecfcheck	なし	統合機能メニュー定義ファイルをチェックする	jcofuncfcheck	なし	機能	コマンド名	必要な実行権限	イベント拡張属性定義ファイルをチェックする	jcoattrfcheck	Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) UNIX の場合：なし	モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックする	jcomonitorfcheck	Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) UNIX の場合：なし	アプリケーション実行定義ファイルをチェックする	jcoappexecfcheck	なし	統合機能メニュー定義ファイルをチェックする	jcofuncfcheck	なし
機能	コマンド名	必要な実行権限																														
イベント拡張属性定義ファイルをチェックする	jcoattrfcheck	なし																														
モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックする	jcomonitorfcheck	なし																														
アプリケーション実行定義ファイルをチェックする	jcoappexecfcheck	なし																														
統合機能メニュー定義ファイルをチェックする	jcofuncfcheck	なし																														
機能	コマンド名	必要な実行権限																														
イベント拡張属性定義ファイルをチェックする	jcoattrfcheck	Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) UNIX の場合：なし																														
モニター画面呼び出し定義ファイルをチェックする	jcomonitorfcheck	Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) UNIX の場合：なし																														
アプリケーション実行定義ファイルをチェックする	jcoappexecfcheck	なし																														
統合機能メニュー定義ファイルをチェックする	jcofuncfcheck	なし																														
12	6	<p>jcoattrfcheck 実行権限 [訂正前] なし</p> <p>[訂正後] Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) UNIX の場合：なし</p>																														
13	6	<p>jcomonitorfcheck 実行権限 [訂正前] なし</p>																														

#	変更箇所	追加・変更内容
		[訂正後] Windows Server 2003 の場合：なし Windows Server 2008 の場合：Administrators 権限 (Windows の UAC 機能が有効な場合は管理者コンソールから実行) UNIX の場合：なし

索引

J

jcoappexecfcheck 74

jcoattrfcheck 76

jcofuncfcheck 78

jcomonitorfcheck 81

JP1 イベント

拡張属性 87

基本属性 86

属性の設定基準 86

定義ファイル利用によるユーザー独自のイベント属性の表示 3

表示手順 5

S

SEVERITY (重大度) 87

あ

アプリケーション実行定義ファイル 52

アプリケーション実行定義ファイルのブロックの生成規則 52

アプリケーション実行定義ブロック内のステートメント生成規則 53

チェックする 73

置換文字列 55

定義例 56

ファイル内ステートメントの生成規則 52

い

イベント拡張属性定義ファイル 39

イベント拡張属性定義ブロック内のステートメント生成規則 42

属性グループ定義ブロック内のステートメント生成規則 44

属性表示順序定義ブロック内のステートメント生成規則 46

チェックする 73

定義例 48

標準提供されているイベント拡張属性定義ファイル 48

ファイル内ステートメントの生成規則 40

ブロックの生成規則 41

お

オブジェクトタイプ定義ファイル 50

形式 50

注意事項 50

定義例 50

か

概要 1

拡張属性 87

共通情報 87

固有情報 90

き

キーワード置換文字列 55

基本属性 86

共通情報 87

こ

コマンド 71

jcoappexecfcheck 74

jcoattrfcheck 76

jcofuncfcheck 78

jcomonitorfcheck 81

一覧 73

記述形式 72

固有情報 90

し

「重大度」の意味 90

す

ステートメント 35

構成要素の生成規則 92

構造 91

種類 91

詳細 91

ち

置換文字列 55

キーワード置換文字列 55

レジストリー置換文字列 55

て

定義ファイル 29

アプリケーション実行定義ファイル
52

一覧 30

イベント拡張属性定義ファイル 39

オブジェクトタイプ定義ファイル 50

格納先 32

構成要素 35

構造 35

チェックコマンド 73

定義ファイルの関連 30

統合機能メニュー定義ファイル 63

命名規則 31

モニター画面呼び出し定義ファイル
57

有効になる契機 33

と

[統合機能メニュー]画面

起動する画面を決める 24

新規メニューの追加手順 24

新規メニューの追加の概要 22

新規メニューを追加する 21

新規メニューを追加するための前提条件
23

定義ファイルを作成する 25

定義ファイルを有効にする 28

統合機能メニュー定義ファイル 63

機能ツリーメニュー定義ブロック内の
ステートメント生成規則 64

チェックする 73

定義例 68

統合機能メニュー定義ファイルのブ

ロック 63

ファイル内ステートメントの生成規則
63

独自イベント 2

特長 2

も

モデルファイル 34

モニター画面

定義ファイルを作成する 15

定義ファイルを有効にする 18

呼び出しの概要 12

呼び出しをするための画面を決める
14

呼び出す 11

呼び出すための設定手順 14

呼び出すための前提条件 13

モニター画面呼び出し定義ファイル 57

形式 57

チェックする 73

定義例 61

ゆ

ユーザー独自のイベント属性

定義ファイルを作成する 7

定義ファイルを有効にする 10

表示する 3

表示する手順 5

表示の概要 4

れ

レジストリー置換文字列 55

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ、マニュアル名称、資料番号のいずれかから検索できます。
CD-ROMマニュアル	日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。
マニュアルのご購入	マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。
オンラインマニュアル	一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。
サポートサービス	ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。
ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

2. インターネットでのマニュアル公開

2種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

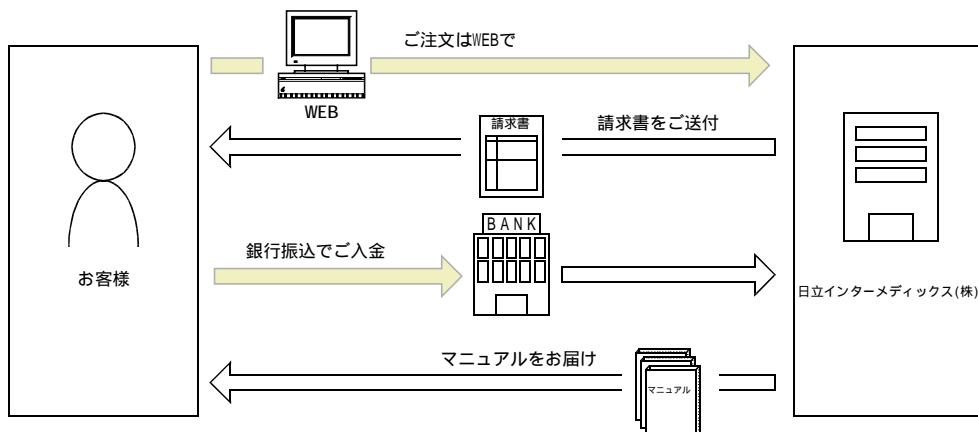
(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開

製品をよりご理解いただくためのご参考として、一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開

ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧、本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

3. マニュアルのご注文



マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし、お申し込み方法をご確認のうえWEBからご注文ください。ご注文先は日立インターメディアックス(株)となります。

ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

入金確認後7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。